

平成30年度  
子ども・子育て支援に関する  
アンケート調査及びヒアリング調査報告書  
(概要版)

平成31年3月

相模原市



## 【目 次】

1	調査実施の概要	
	(1) 調査の目的 .....	1
	(2) アンケート調査の実施概要 .....	1
	(3) ヒアリング調査の実施概要 .....	2
	(4) アンケート調査の結果要約 .....	3
2	アンケート調査の結果概要	
	(1) 調査種別1：就学前児童を持つ保護者対象調査 .....	4
	(2) 調査種別2：小学校児童を持つ保護者対象調査 .....	17
	(3) 調査種別3：子ども本人（11歳、14歳、17歳）対象調査 .....	25
	(4) 調査種別4：青年男女（20歳、25歳、30歳、35歳）対象調査 .....	36
	(5) 調査種別5：ひとり親家庭の人対象調査 .....	43
3	ヒアリング調査の結果概要 .....	48



# 1 調査実施の概要

## (1) 調査の目的

相模原市では、平成27年3月に「相模原市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、次代を担う子どもたちの健やかな成長を支える取組を進めてまいりました。

このたび、平成32年(2020年)度からスタートする、第二次「相模原市子ども・子育て支援事業計画」を策定するため、子育て家庭の生活実態や子育てサービスへのニーズ等をお聞きする「子ども・子育て支援に関するアンケート調査及びヒアリング調査」を実施いたしました。

## (2) アンケート調査の実施概要

### ①調査時期と調査方法

調査時期：平成30年12月(はがきによる催促を1回)

調査方法：調査票の郵送による配布及び回収

### ②調査の種別、抽出方法及び配布件数

調査種別1	調査対象者	就学前児童(0歳児～5歳児)を持つ保護者
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	配布件数	5,600件
調査種別2	調査対象者	小学校児童(6歳児～11歳児)を持つ保護者
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	配布件数	3,000件
調査種別3	調査対象者	平成30年度に11歳、14歳、17歳を迎える人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	配布件数	1,500件
調査種別4	調査対象者	平成30年度に20歳、25歳、30歳、35歳を迎える人
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	配布件数	2,000件
調査種別5	調査対象者	ひとり親家庭の人
	抽出方法	児童扶養手当台帳から無作為抽出
	配布件数	500件

### ③調査票配布・回収状況

調査種別	対象者	配布数	回収数	回収率
調査種別1	就学前児童を持つ保護者	5,600	2,808	50.1%
調査種別2	小学校児童を持つ保護者	3,000	1,496	49.9%
調査種別3	子ども本人(11歳、14歳、17歳)	1,500	598	39.9%
調査種別4	青年男女(20歳、25歳、30歳、35歳)	2,000	598	29.9%
調査種別5	ひとり親家庭の人	500	214	42.8%
	計	12,600	5,714	45.3%



④調査結果の見方について

- 調査結果の数値については小数点第2位以下を四捨五入しているため、内訳を合計しても100%に合致しない場合があります。
- 回答者が2つ以上回答することができる質問(複数回答)の場合、その回答率の合計は100%を超えることがあります。
- グラフの単位は、特にことわりのない限り「%」(回答率)をあらわしています。
- グラフ中の「n(回答者数)」は、各設問に該当する回答者の総数であり、回答率(%)の母数をあらわしています。
- 選択肢の一部を省略・編集している場合があります。
- 「n(回答者数)」が、50未満など回答者数が少ない場合は、グラフ表示を省略参考にとどめている箇所があります。

(3) ヒアリング調査の実施概要

①調査時期と調査方法

調査時期：平成30年12月～平成31年2月

調査方法：対象者(下記参照)への面接方式による聞き取り調査(一部調査票留置きで実施)

(東京家政学院大学[緑区担当]、和泉短期大学[中央区担当]、相模女子大学[南区担当]と、調査業務の委託事業者が協働で実施しました。)

②調査区分と実施人数

施設分類	実施箇所数	責任者	スタッフ	利用者	利用者(子ども)
認可保育所	3	3	9	21	0
認定保育室	3	3	12	28	0
認可外保育所	1	1	4	5	0
地域型保育事業	3	3	8	16	0
幼稚園	3	3	12	25	0
認定こども園	3	3	12	30	0
こどもセンター	3	3	15	14	15
地域子育て支援拠点事業	3	2	10	28	0
青少年学習センター	1	1	3	0	5
児童クラブ	6	6	23	27	29
児童館	3	3	11	8	11
若者サポートステーション	1	1	4	0	0
利用者支援事業	3	3	8	0	0
合計	36	35	131	202	60

(4) アンケート調査の結果要約

調査	結果要約
調査種別1 就学前児童を持つ 保護者対象調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 絵本の読み聞かせを「ほとんどしていない」が3割と最も多い一方、「毎日」も2割あり、子どもへの関わりが各家庭によりばらつきがあると考えられます。</li> <li>• 子育てをする上で大切なこととして、子どもとのコミュニケーションが重要であることは認識されており、コミュニケーションのとり方についての様々な工夫などの情報提供も重要と考えられます。</li> <li>• 子育てで「わからないことがある」との回答は多い一方、地域の子育て支援事業を利用しているとの回答が少ないことから、ニーズに合った子育て支援施策が求められます。</li> <li>• 子育てで不安に思うことは、「自分の時間が取れない」が6割を超えており、家族内や地域など多様な主体が子育てに関わることの重要性が示唆されます。</li> </ul>
調査種別2 小学校児童を持つ 保護者対象調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 子育てを楽しく、安心して行うために必要なサービスについては、平成25年度調査と比較して、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が増加しており、「遊び」に対するニーズが高まっていると考えられます。</li> <li>• 市の取組みに対しては、「体験活動やスポーツ」などの場づくりに対するニーズが平成25年度調査と比較して増加しており、「遊び」に対するニーズの高さが背景にあると考えられます。</li> </ul>
調査種別3 子ども本人（11歳、14歳、17歳） 対象調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 就寝時間は、14歳、17歳と年齢が高くなるにつれて、「0時」の割合が高くなるなど遅くなる傾向があります。</li> <li>• 自分の携帯電話やスマートフォンについては、17歳の約99%が所有しており、これらを前提とした取組み（情報に関するルールやマナーの習得等）が重要です。</li> <li>• 地域活動については、11歳において5割以上が参加しており、地域とのつながりをつくる機会となっています。</li> <li>• 「たたかれたり、つねられたりする」等の体験は、平成25年度調査と比較して増加しており、総合的な虐待防止策が求められます。</li> </ul>
調査種別4 青年男女対象（20歳、25歳、30歳、35歳） 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 未婚者において、結婚の希望、子育ての希望はあることから、こうした希望を踏まえた仕組みが求められています。</li> <li>• 「職業生活との家庭生活との両立」においては、「多様な働き方」や「保育サービス」などへのニーズが高く、行政、企業など社会全体が子育て世帯を支える仕組みづくりが求められています。</li> </ul>
調査種別5 ひとり親家庭対象 調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 平成25年度調査として比較して「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」との回答割合が減少しており、親族内で子育て支援が得られない世帯が増加傾向にあります。</li> <li>• ひとり親家庭への自立支援施策については、「職業訓練」や「病気の子どもの預かり」、「子どものしつけ等の相談や学習支援」など多岐わたる分野でニーズが高く、各世帯の状況に応じた、きめ細かい支援が求められています。</li> </ul>

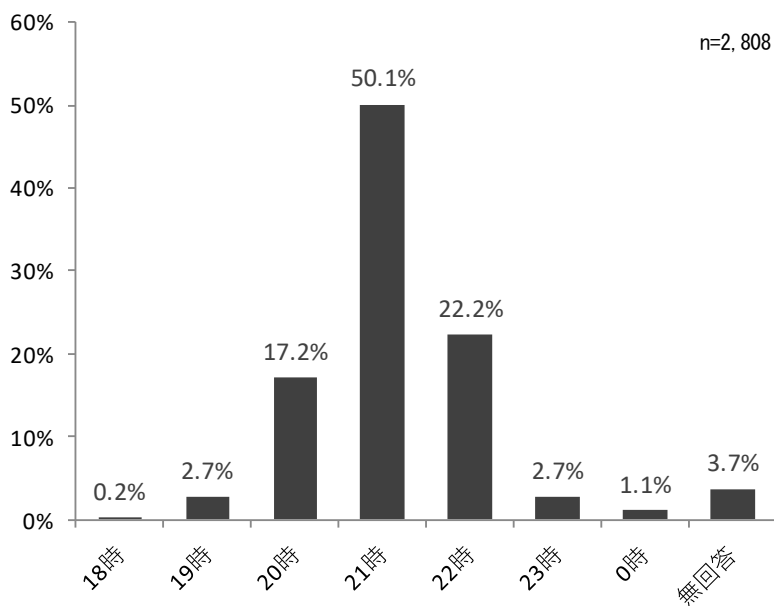
## 2 アンケート調査の結果概要

### (1) 調査種別1：就学前児童を持つ保護者対象調査

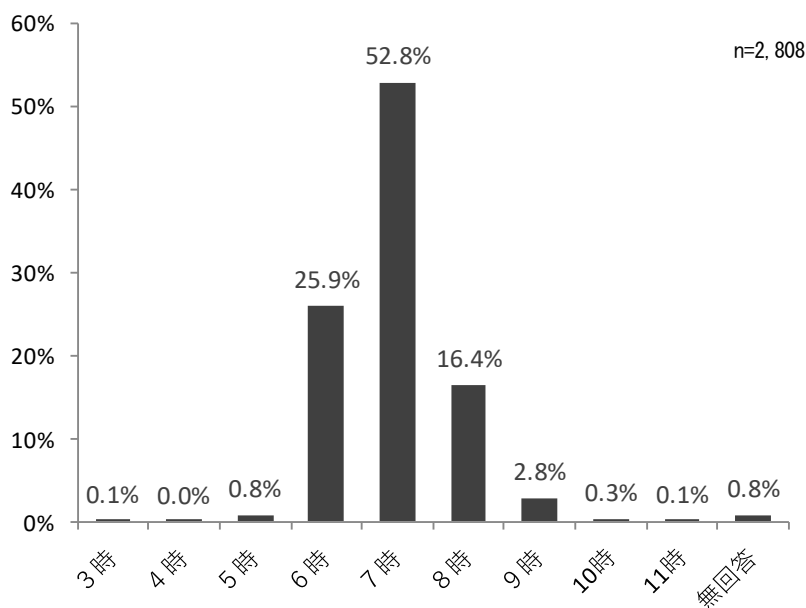
#### ◆ お子さんの育ちをめぐる環境について

睡眠状況（平日）については、寝る時間で最も多かったのが「21時」、起きる時間で最も多かったのが「7時」となっており、睡眠時間としては「10時間」が最も多くなっております。

【寝る時間】（平日）



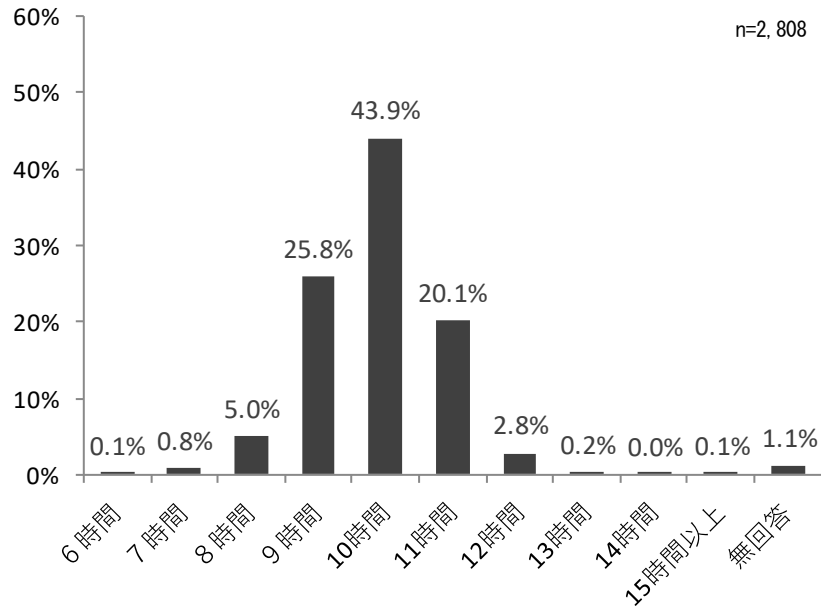
【起きる時間】（平日）



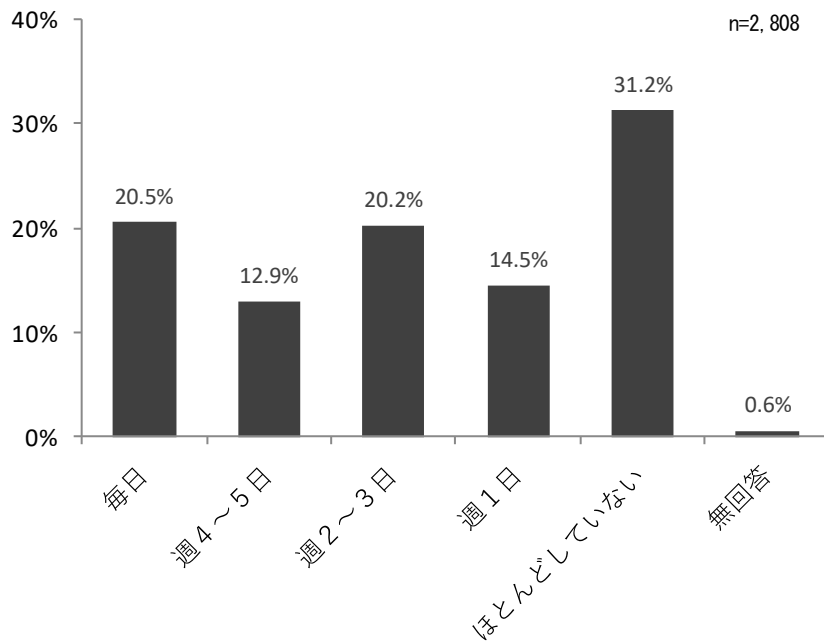




【睡眠時間】（平日）

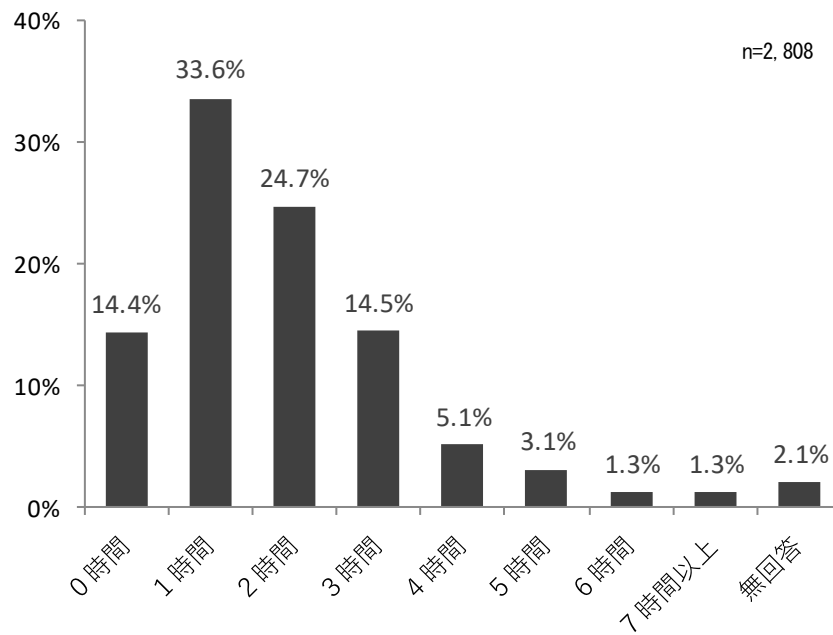


絵本の読み聞かせの状況については、「ほとんどしていない」が31.2%と最も多い一方、次いで、「毎日」が20.5%となっています。



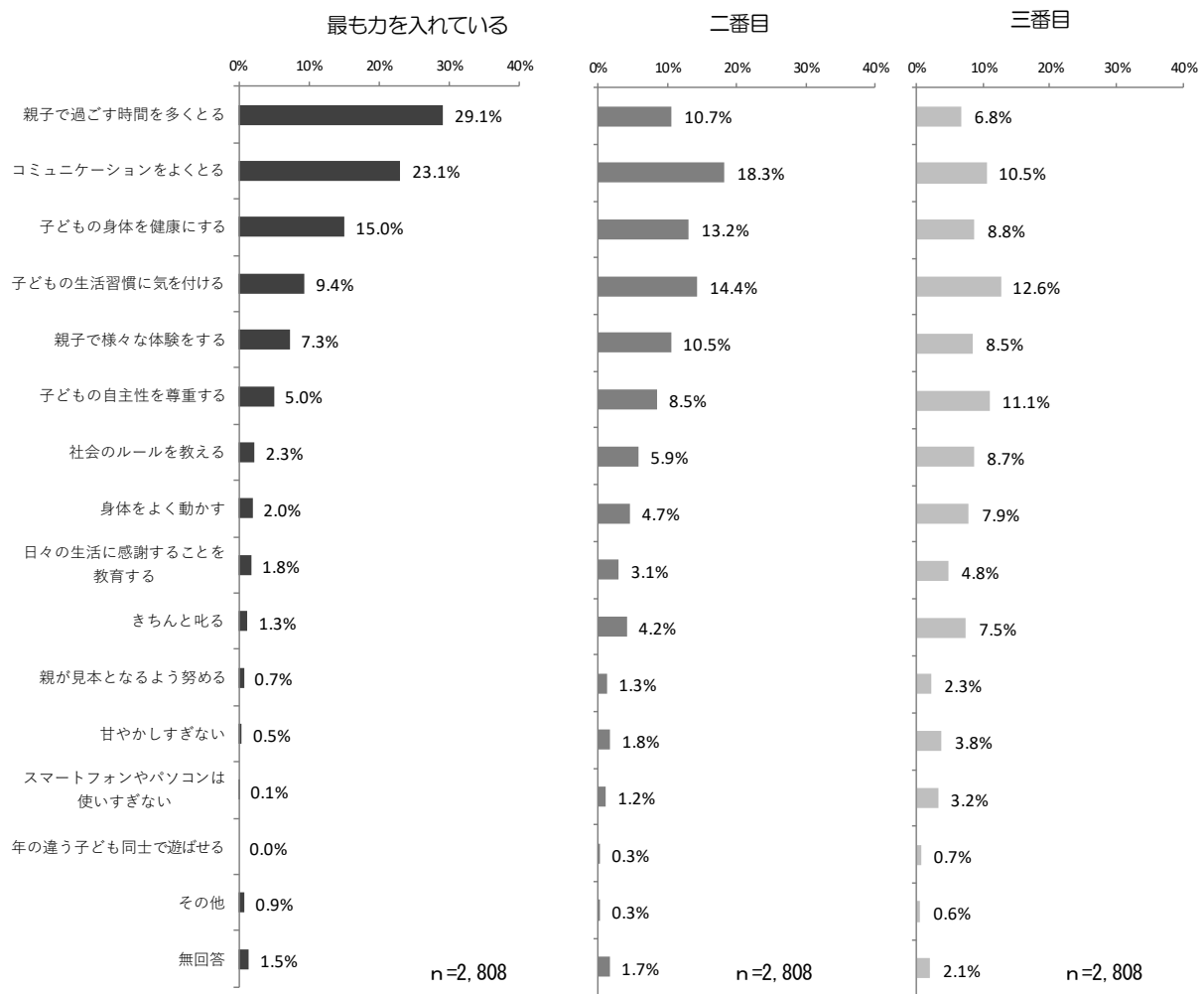


テレビやDVD・インターネット動画の視聴時間（平日）については、「1 時間」が 33.6%と最も多く、次いで「2 時間」が 24.7%、「3 時間」が 14.5%となっています。



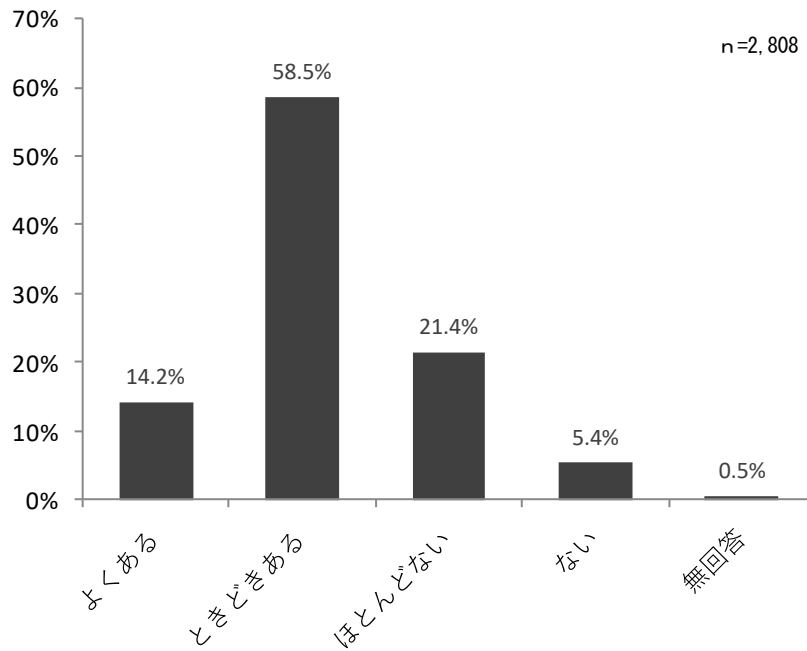
## ◆ 子育てに対する考え方について

親が、家庭で子育てをする上で大切なこととして、最も力を入れていることについては、「親子で過ごす時間を多くとる」が29.1%と最も多く、次いで、「コミュニケーションをよくとる」が23.1%、「子どもの身体を健康にする」が15.0%となっています。

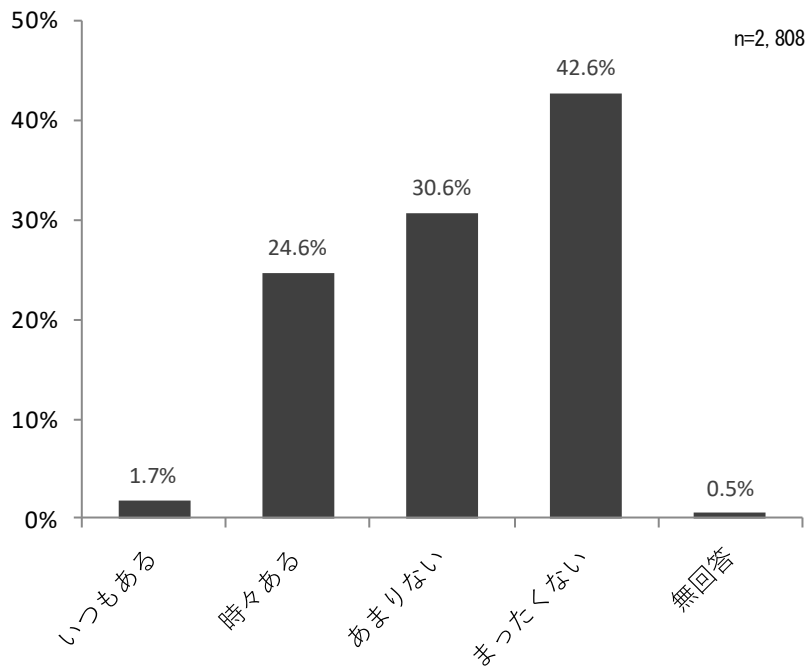




子育てで、どうしていいかわからなくなるのが「よくある」「ときどきある」と回答した人が、7割を超えています。

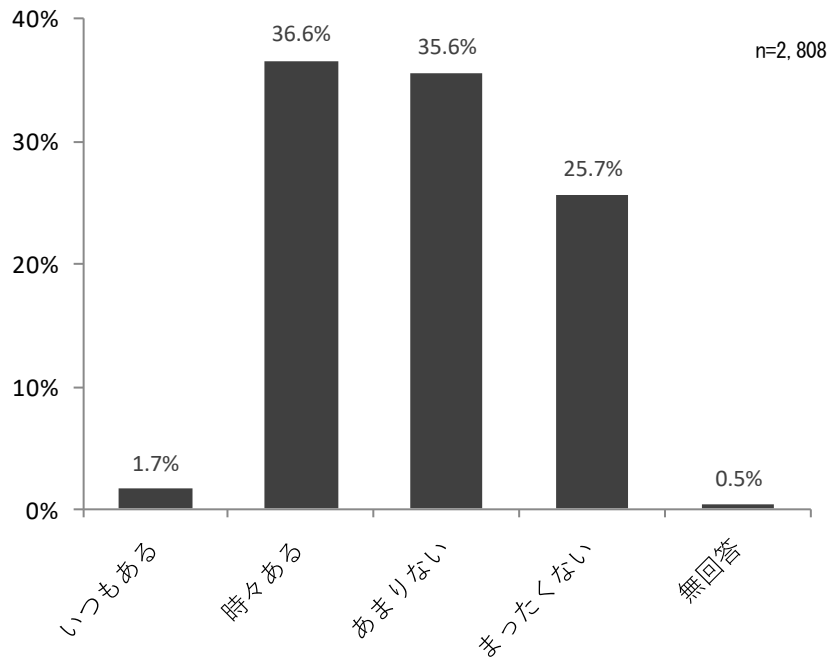


気持ちがイライラして子どもをたたいてしまうことは、「まったくない」が42.6%と最も多く、次いで「あまりない」が30.6%、「時々ある」が24.6%となっています。

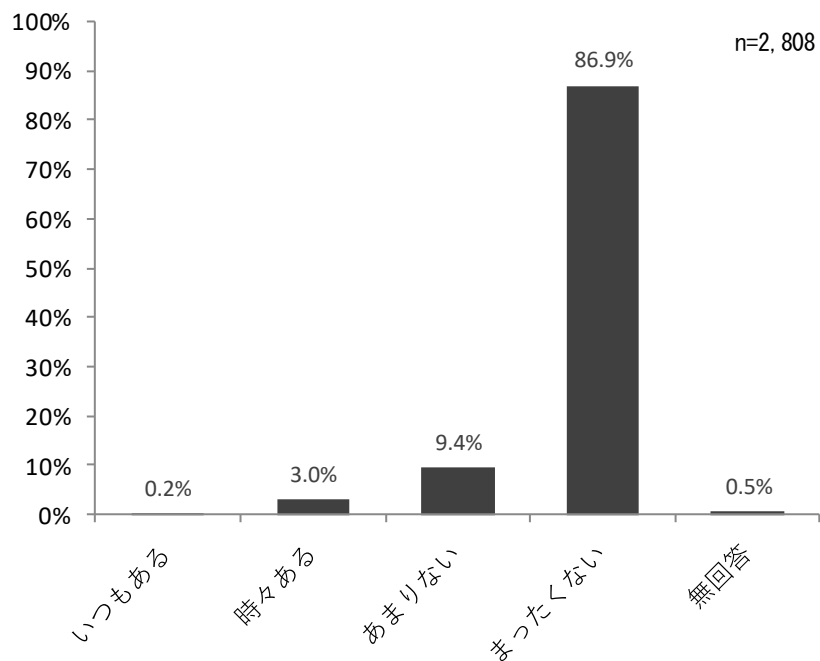




やる気がおこらず、子どもの世話をしたくないときがあることは、「時々ある」が36.6%と最も多く、次いで「あまりない」が35.6%、「まったくない」が25.7%となっています。

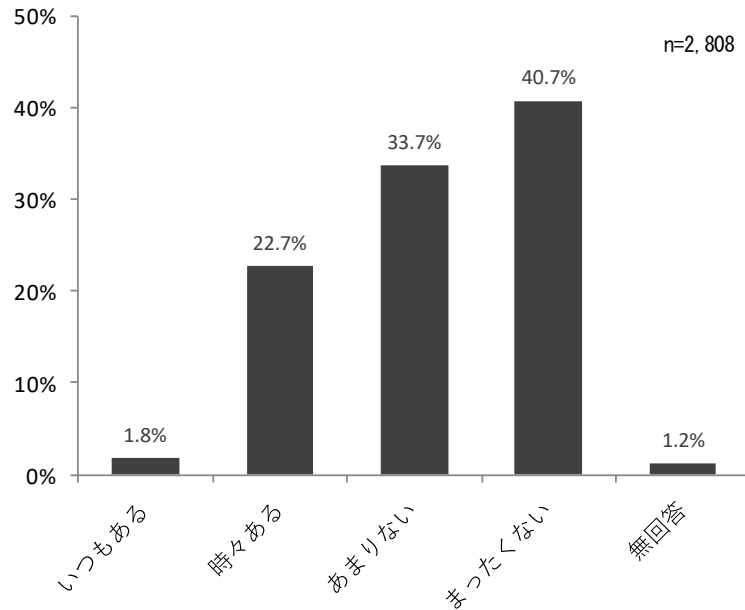


子どもをひとりにして外出することは、「まったくない」「あまりない」と回答した人が9割を超えています。





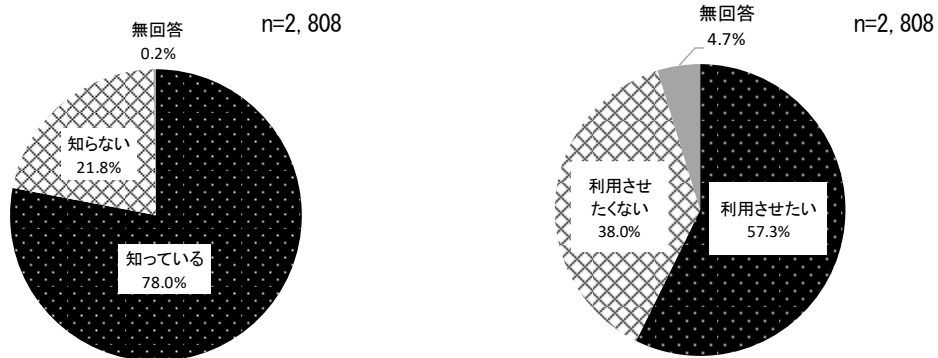
子どものいるところで、夫婦げんかをするのは、「まったくない」「あまりない」と回答した人が7割を超えています。



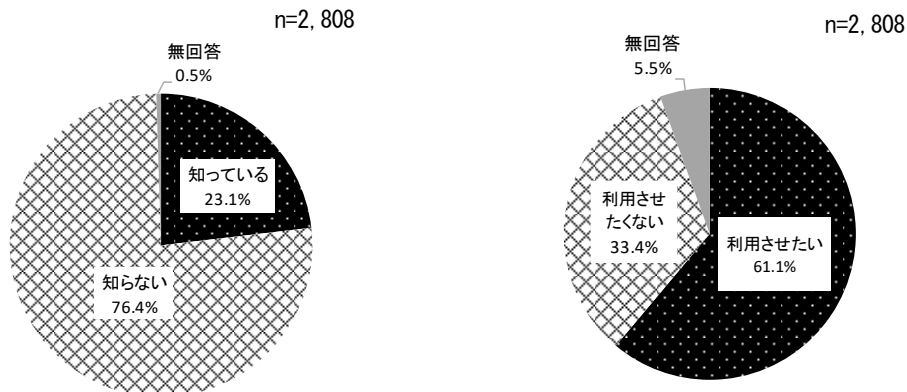
「子ども食堂」は78.0%の人が知っている一方、「無料学習塾」を知っていると回答した人は23.1%にとどまっています。

また、利用希望については共に6割程度となっています。

### <子ども食堂>



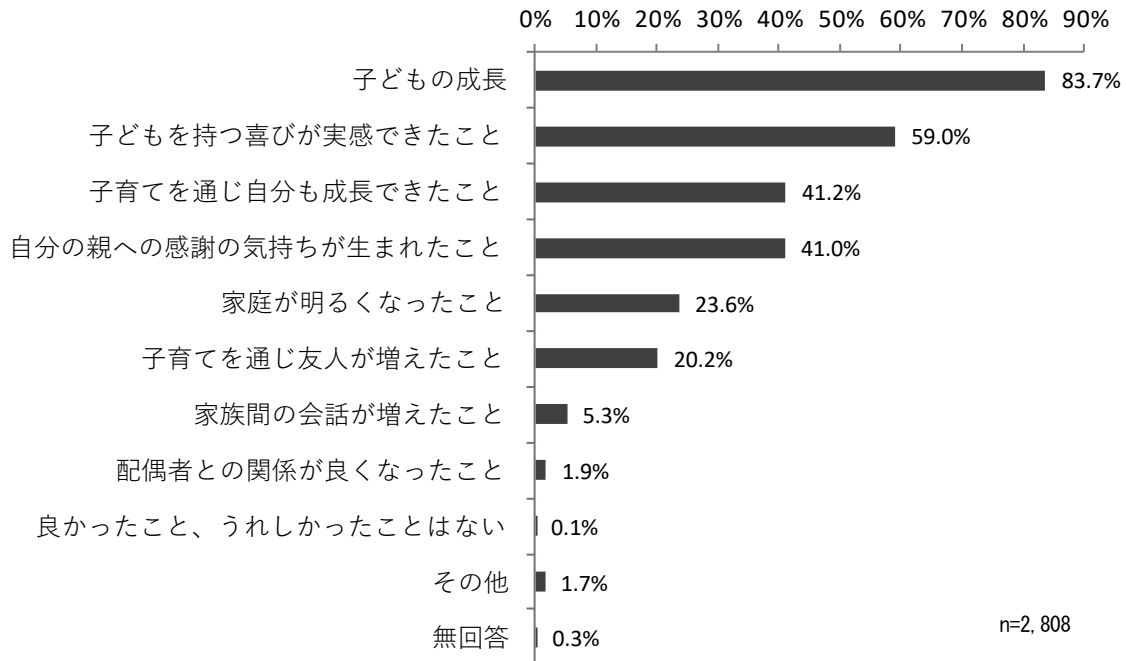
### <無料学習塾>



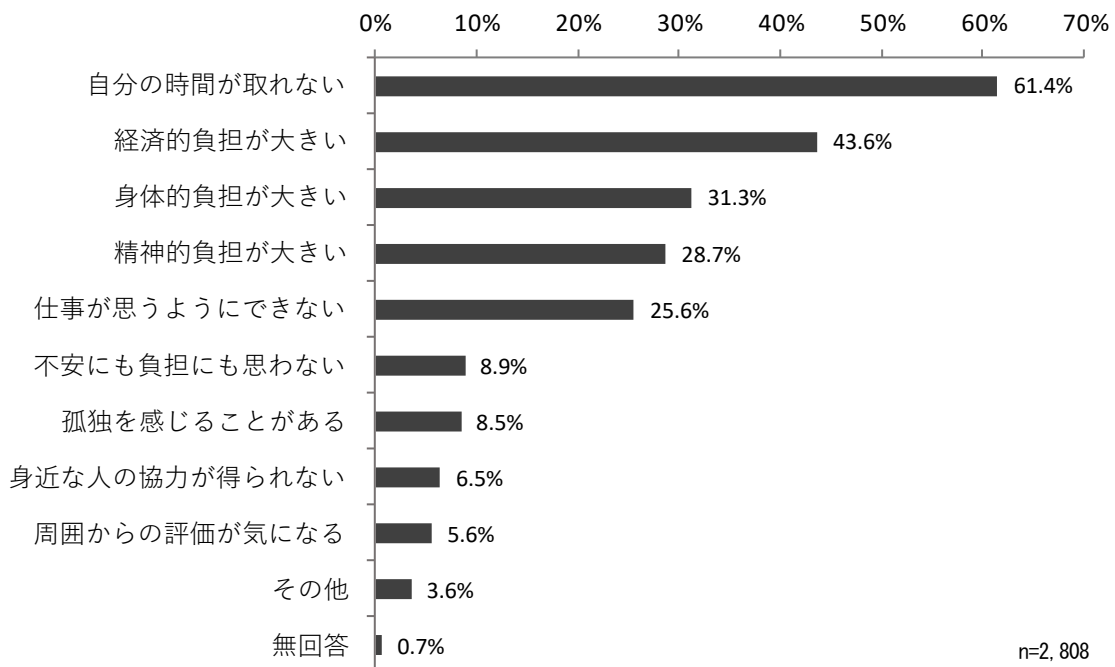


子育てをして良かったこと、うれしかったことについては「子どもの成長」が83.7%と最も多く、子育てをして不安に思うこと、負担に思うことについては「自分の時間が取れない」が61.4%と最も多くなっています。

### <子育てをして良かったこと、うれしかったこと>

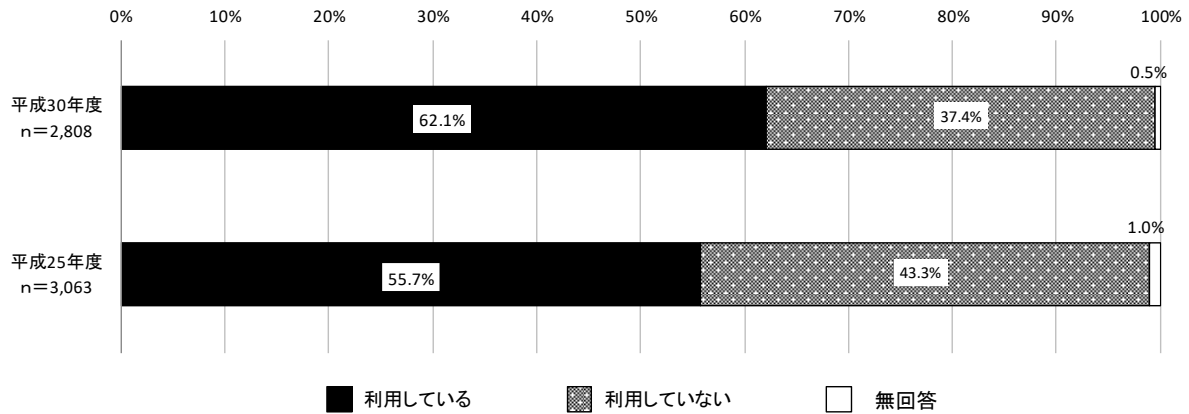


### <子育てをして不安に思うこと、負担に思うこと>



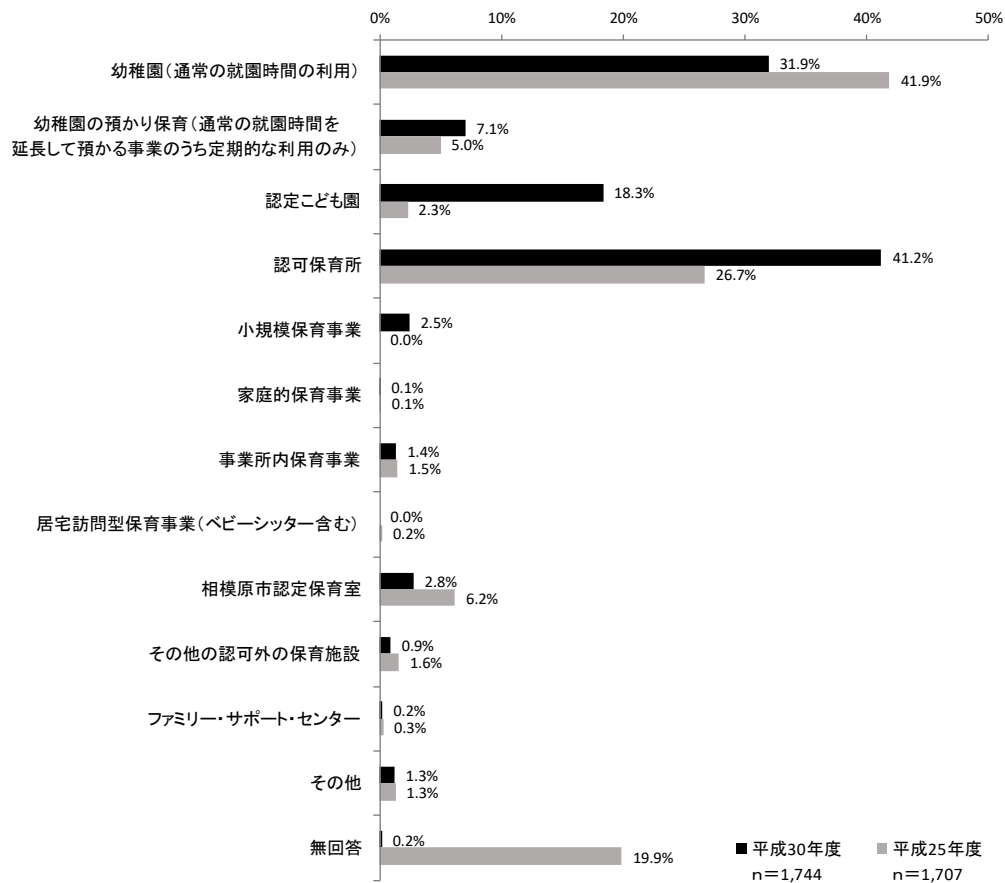
## ◆ 平日の定期的な教育・保育事業の現状と今後の利用希望について

幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」の利用について、平成25年度調査と比較すると、「利用している」と回答した人が増加し、6割を超えています。



また、年間を通じて「定期的に」利用している事業としては、「認可保育所」が41.2%と最も多く、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が31.9%、「認定こども園」が18.3%となっています。

平成25年度調査結果と比較すると、「認可保育所」や「認定こども園」が増加し、「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が減少しています。

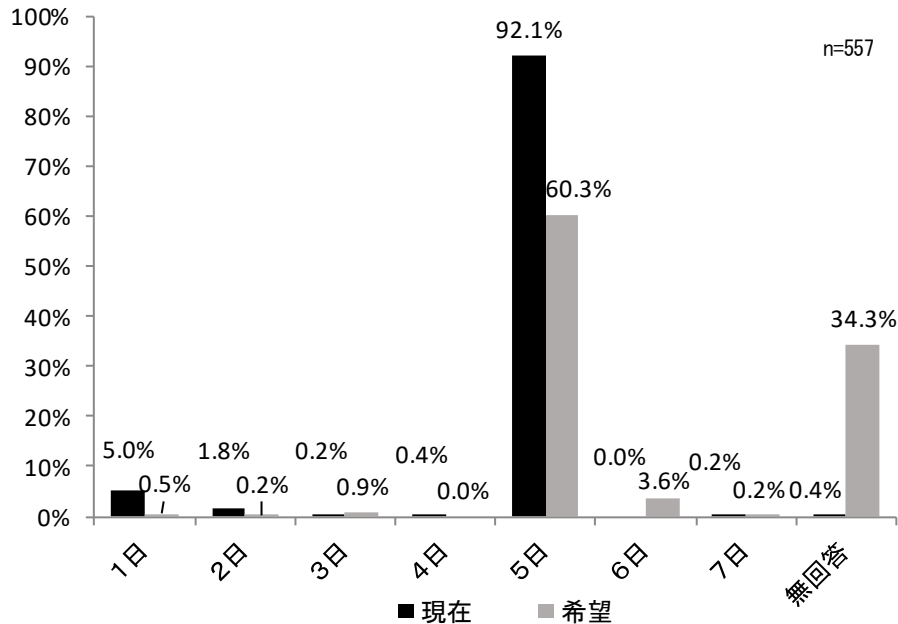






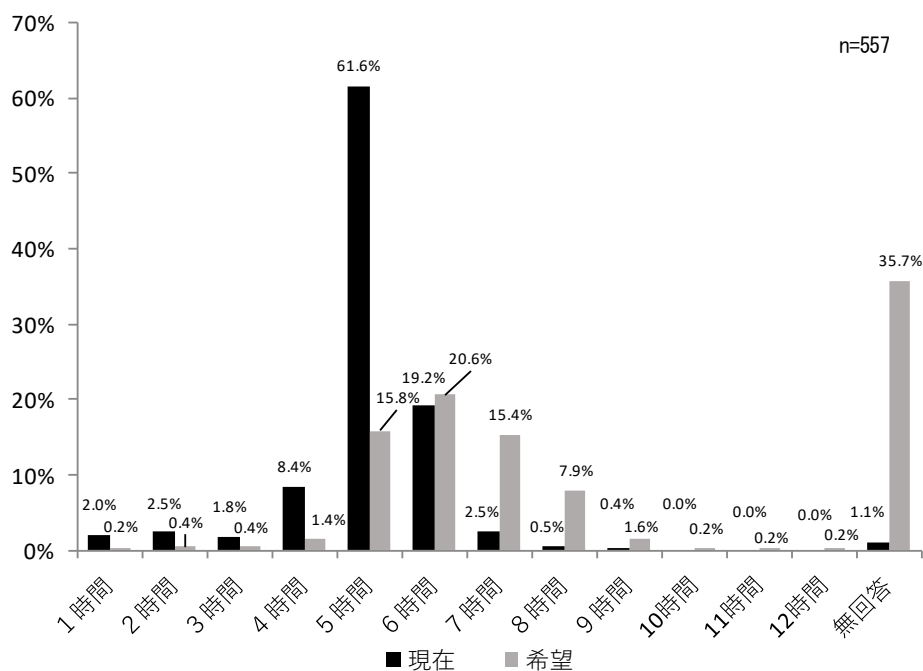
幼稚園の現在の利用日数は、「5日」が92.1%と最も多く、わずかに「1日」や「2日」の利用も見られます。また、希望日数では、「5日」が最も多い点は、現在の利用日数と同じですが、「1日」や「2日」の利用は減少し、「6日」の回答があります。

### <日数>



幼稚園の現在の利用時間は、「5時間」が61.6%と最も多く、次いで「6時間」が19.2%となっています。また、希望時間では、「7時間」や「8時間」の回答もあります。

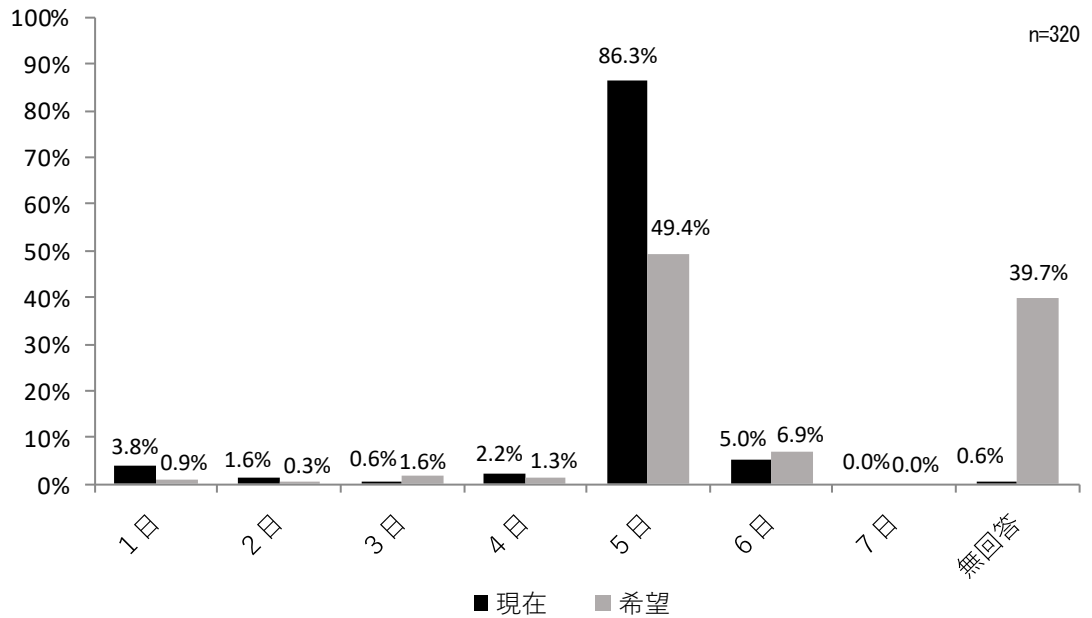
### <時間>





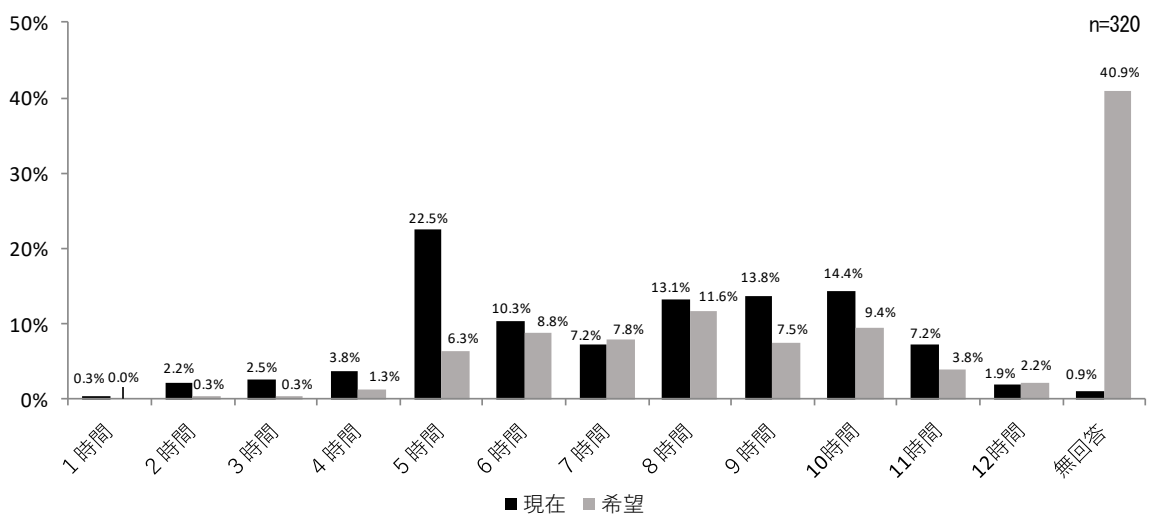
認定こども園の現在の利用日数は、「5日」が86.3%と最も多く、わずかに「6日」の利用も見られます。

### <日数>



認定こども園の現在の利用時間は、「5時間」が22.5%と最も多く、次いで「10時間」が14.4%、「9時間」が13.8%となっています。また、希望時間では、「5時間」が現在時間より減少し、より長時間希望する傾向が見られます。

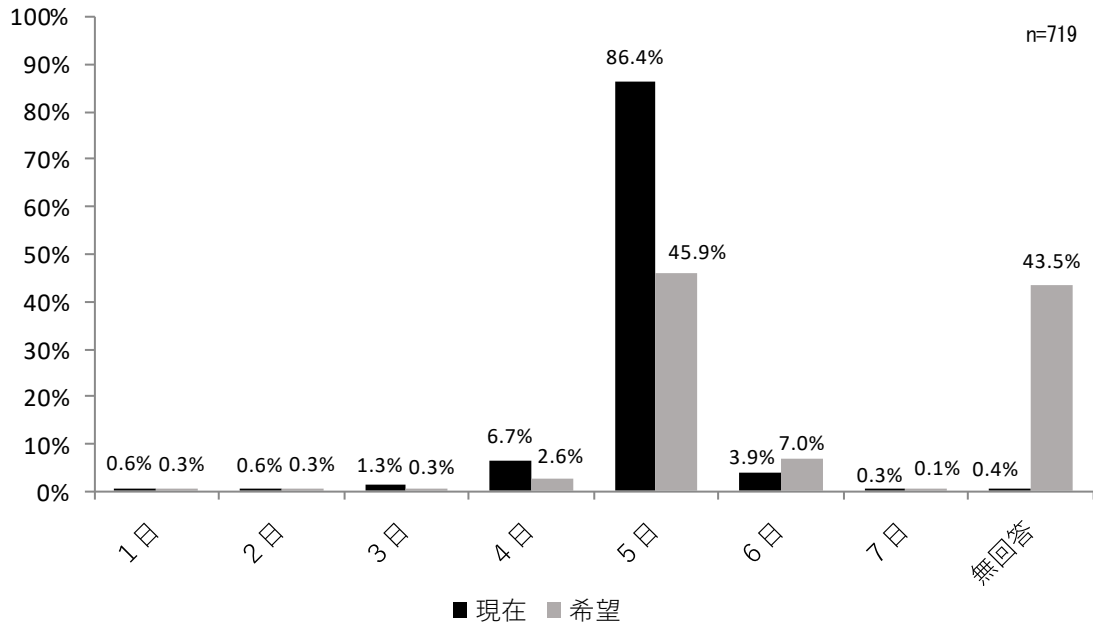
### <時間>





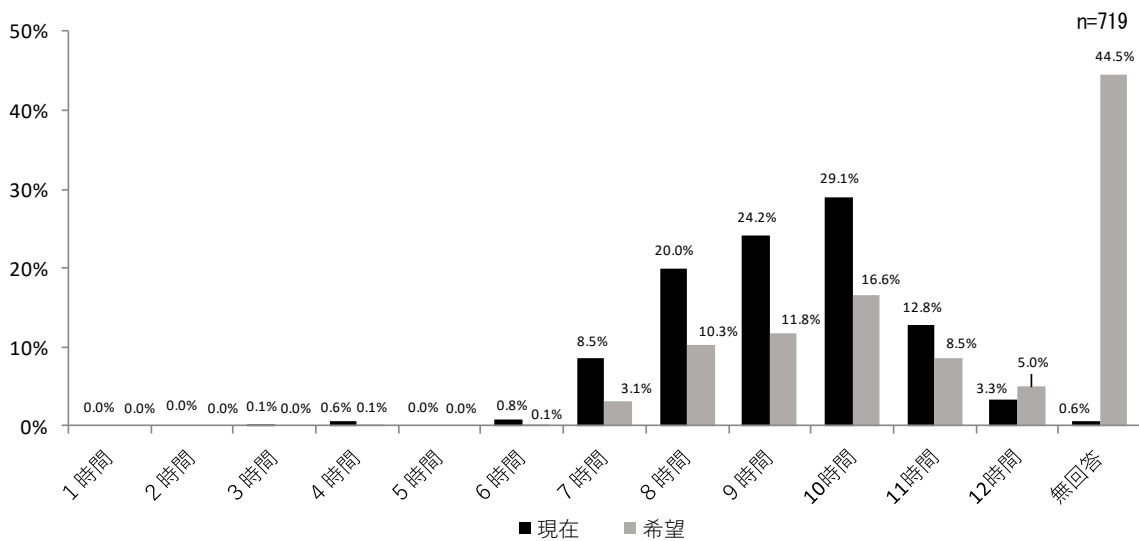
認可保育所の現在の利用日数は、「5日」が86.4%と最も多く、わずかに「6日」の利用も見られます。また、希望日数では、「5日」が最も多い点は、現在の利用日数と同じです。

### <日数>



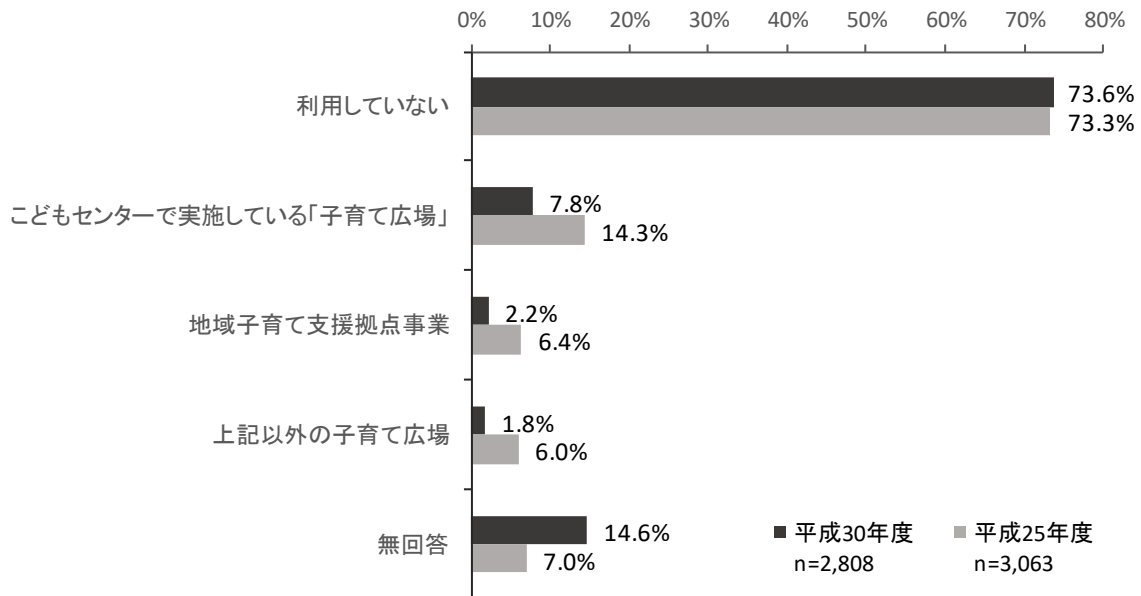
認可保育所の現在の利用時間は、「10時間」が29.1%と最も多く、次いで「9時間」が24.2%、「8時間」が20.0%となっています。また、希望時間でも、現在の利用時間と同様に長時間希望する傾向が見られます。

### <時間>



## ◆ 地域の子育て支援事業の利用状況について

地域の子育て支援事業の利用状況は、「利用していない」が最も多く、7割を超えており、平成25年度調査結果と比較すると、地域子育て支援事業の利用率は減少しています。

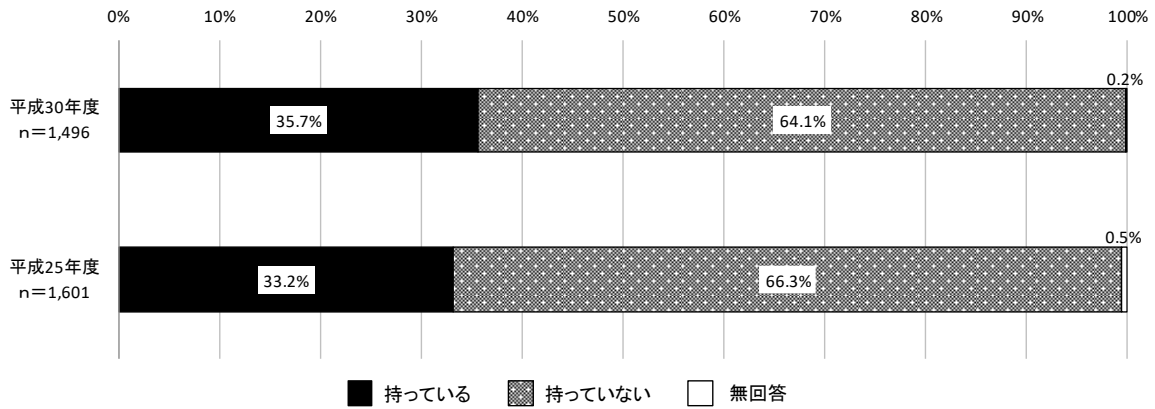




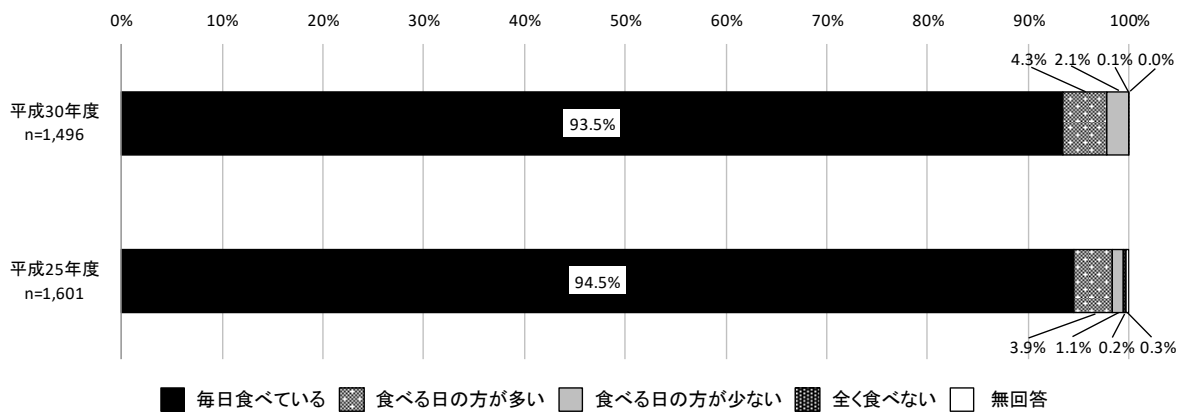
## (2) 調査種別2：小学校児童を持つ保護者対象調査

### ◆ 日常の子育てについて

お子さん専用の携帯電話、スマートフォンについては、35.7%が持っており、平成25年度調査結果との比較では、大きな差異は見られません。



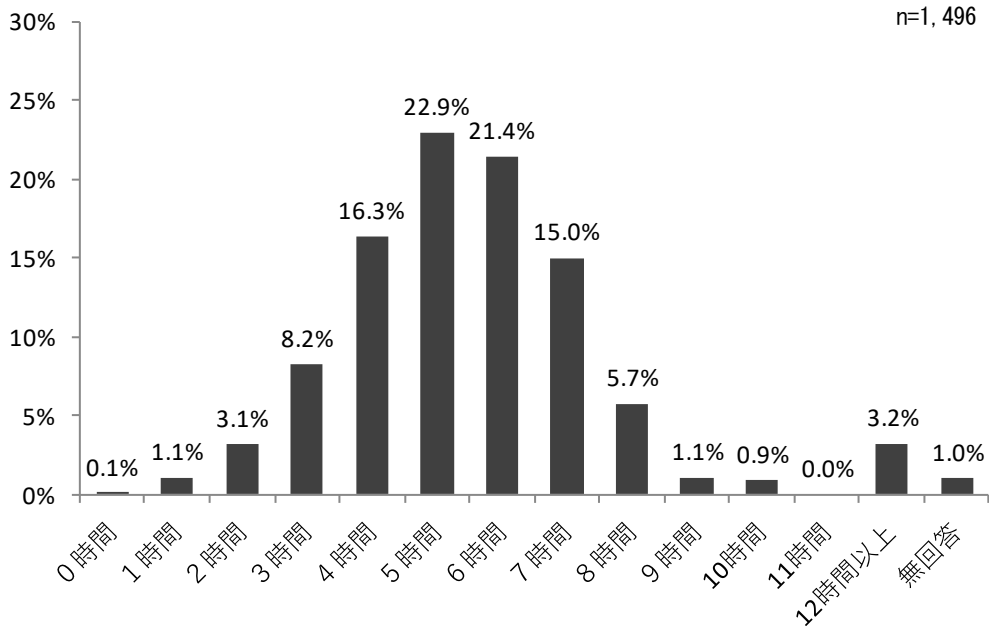
朝食の摂食状況については、平成25年度調査結果との大きな差異はなく、9割以上の方が毎日朝食を取っています。



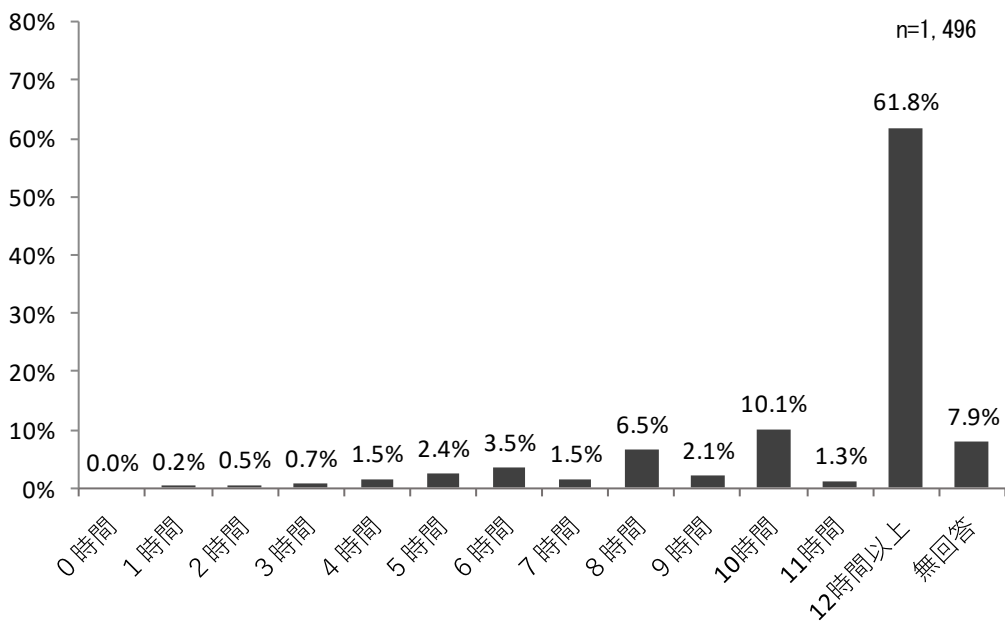


母親が、子どもの起きている時に一緒に過ごす時間は、平日で「5時間」が22.9%と最も多く、次いで「6時間」が21.4%、「4時間」が16.3%となっています。また、休日では、「12時間以上」が61.8%と最も多く、次いで「10時間」が10.1%となっています。

＜母親が子どもの起きている時に一緒に過ごす時間：平日＞



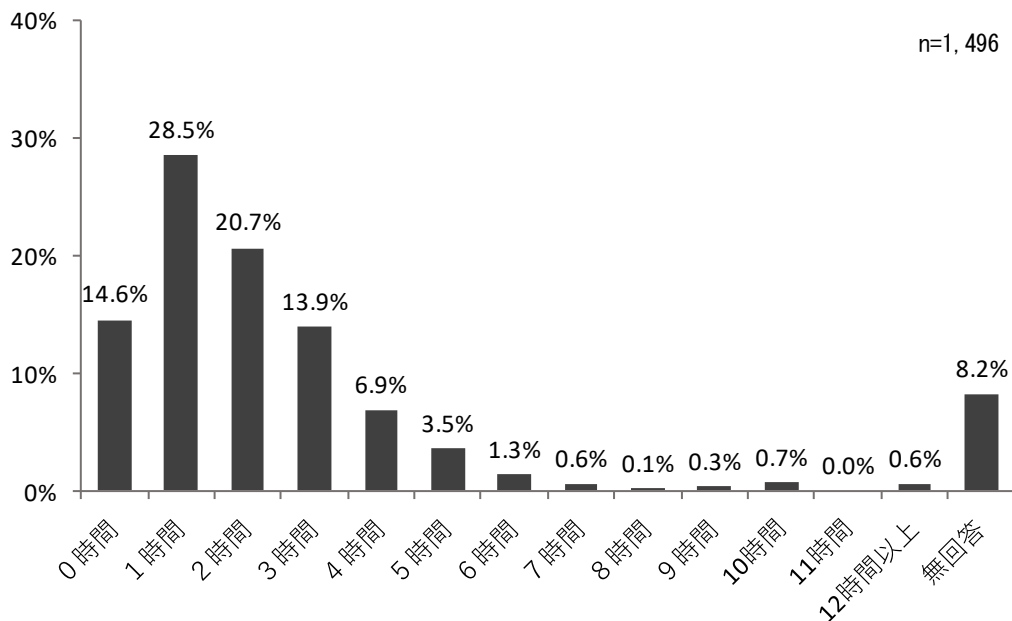
＜母親が子どもの起きている時に一緒に過ごす時間：休日＞



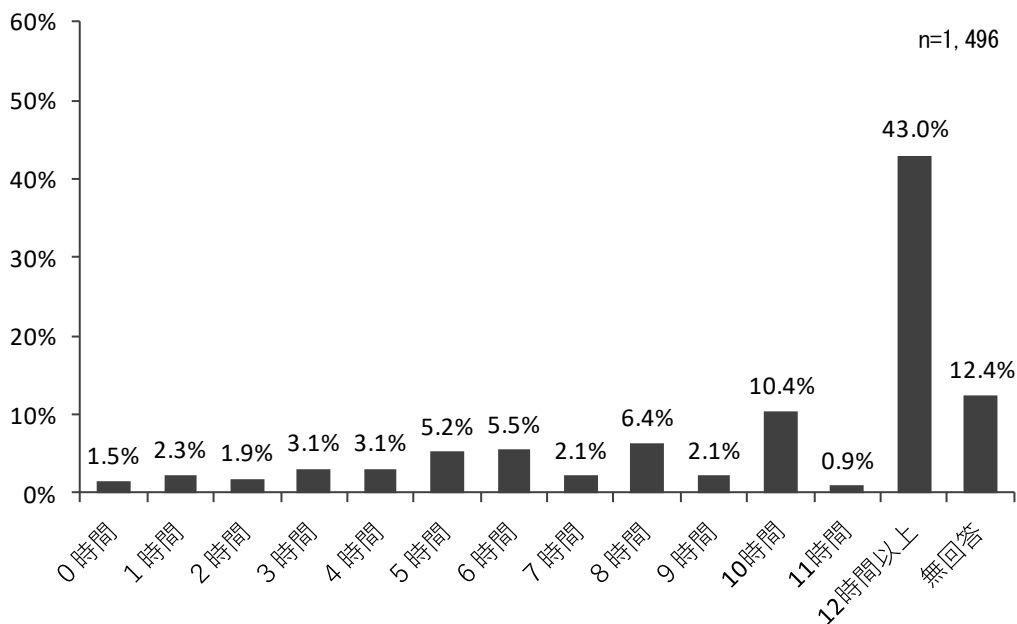


父親が、子どもの起きている時に一緒に過ごす時間は、平日で「1時間」が28.5%と最も多く、次いで「2時間」が20.7%、「0時間」が14.6%となっています。また、休日では、「12時間以上」が43.0%と最も多く、次いで「10時間」が10.4%となっています。

#### <父親が子どもの起きている時に一緒に過ごす時間：平日>



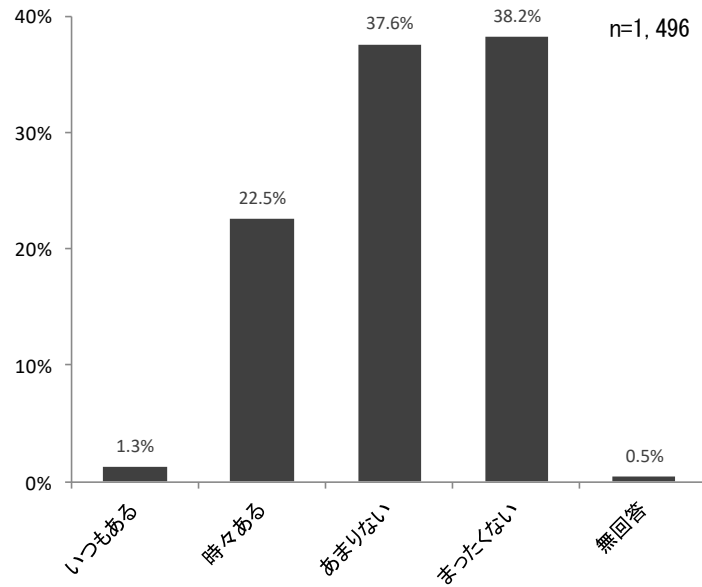
#### <父親が子どもの起きている時に一緒に過ごす時間：休日>



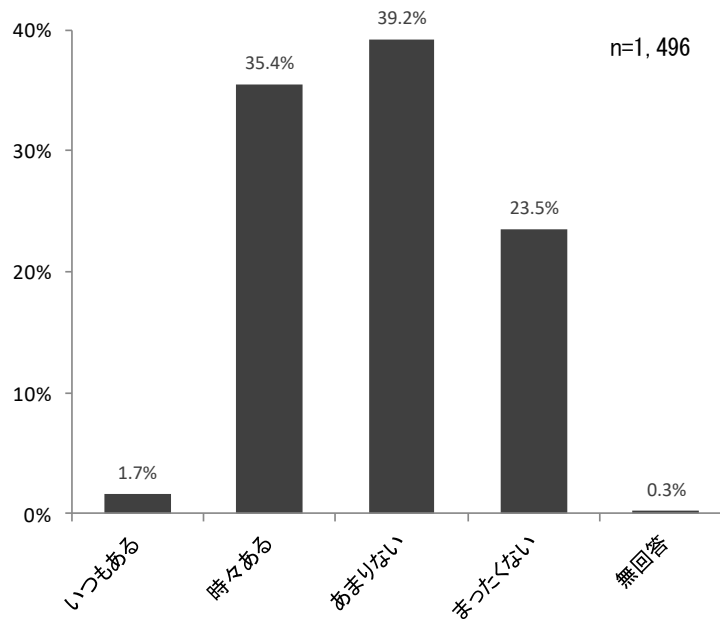


## ◆ 子育てに対する考え方について

気持ちがイライラして子どもをたたいてしまうことは、「まったくない」が38.2%と最も多く、次いで「あまりない」が37.6%、「時々ある」が22.5%となっています。



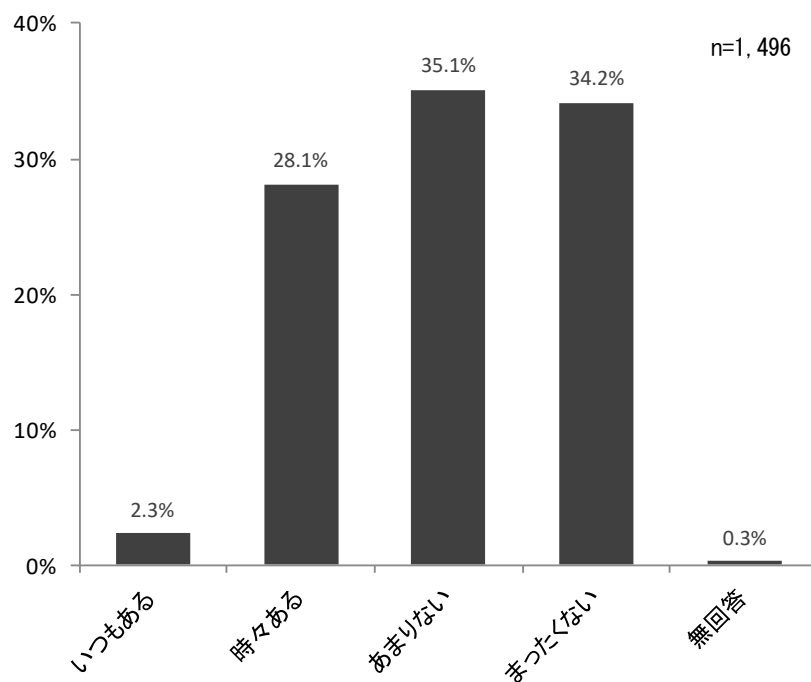
やる気がおこらず、子どもの世話をしたくないときがあることは、「あまりない」が39.2%と最も多く、次いで「時々ある」が35.4%、「まったくない」が23.5%となっています。



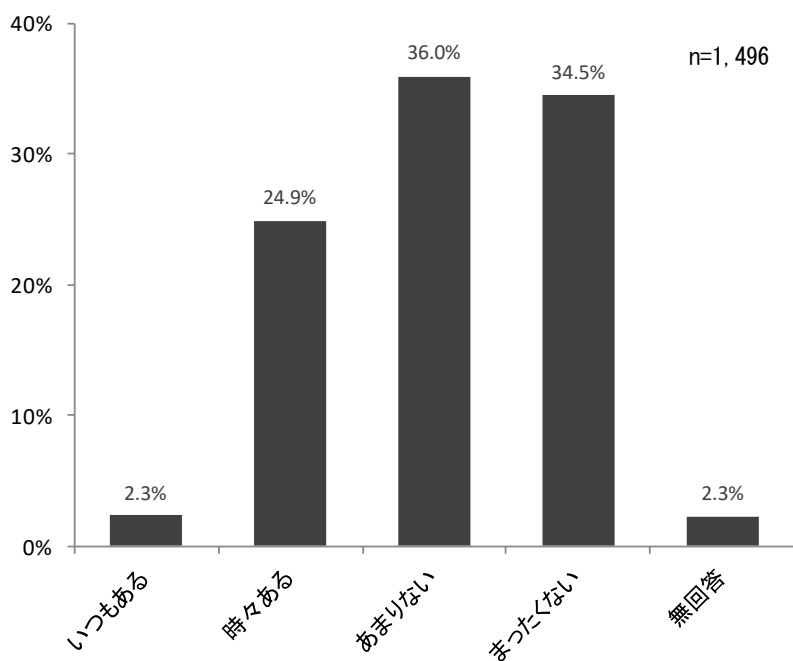




子どもをひとりにして外出することは、「あまりない」が35.1%と最も多く、次いで「まったくない」が34.2%、「時々ある」が28.1%となっています。

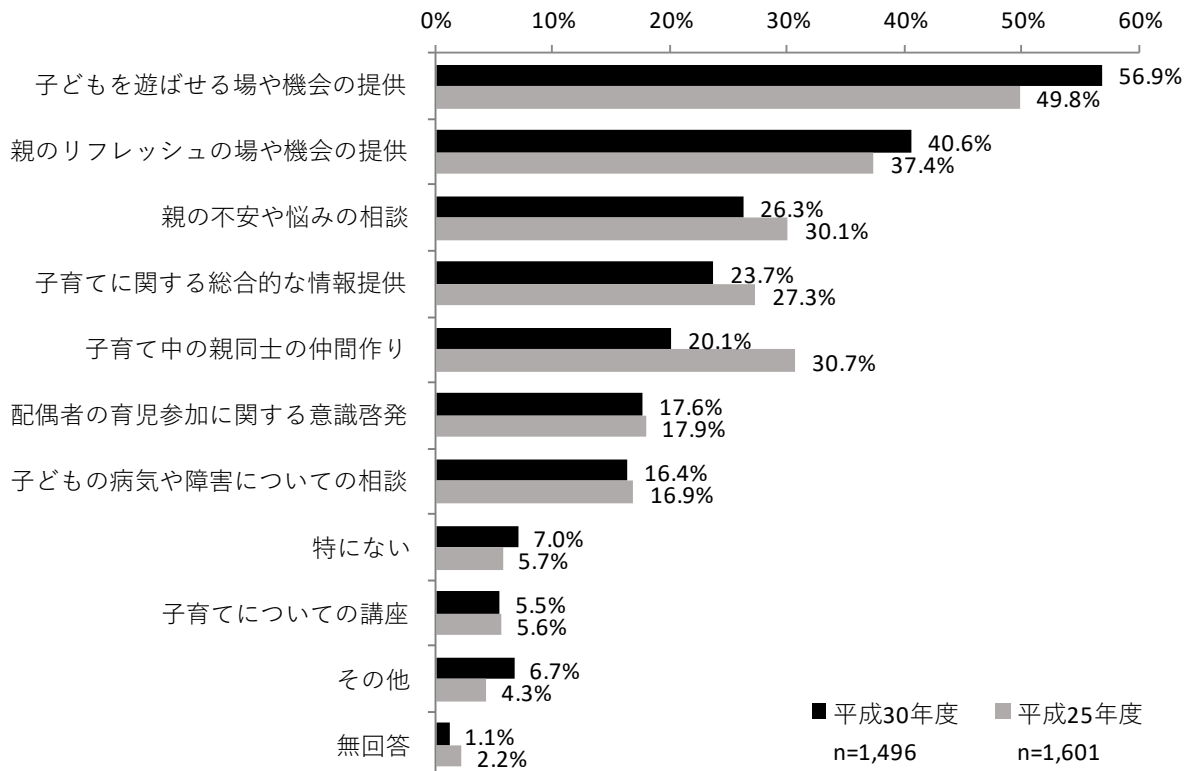


子どものいるところで、夫婦げんかをするのは、「あまりない」が36.0%と最も多く、次いで「まったくない」が34.5%、「時々ある」が24.9%となっています。



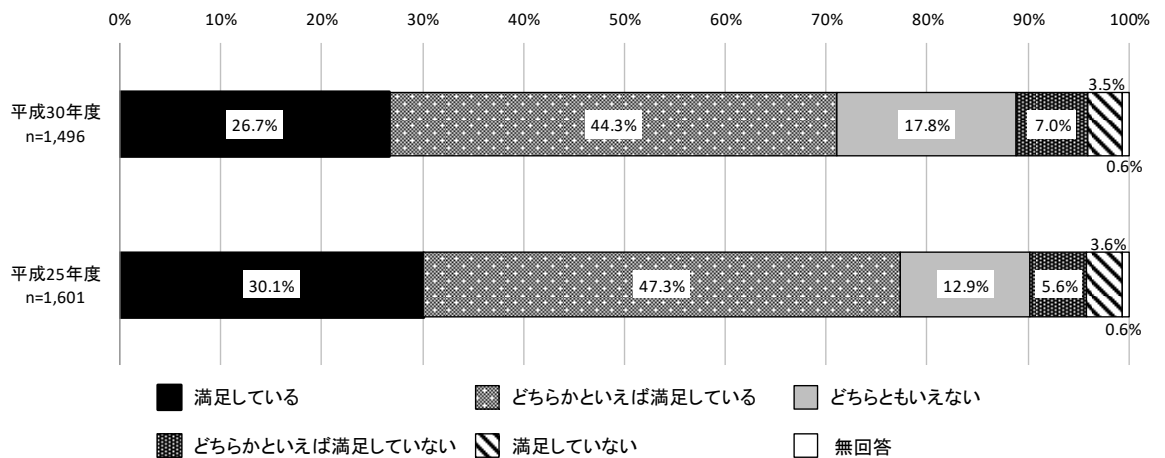


日常の子育てを楽しく、安心して行うために必要なサービスについては、平成25年度調査結果と比較すると、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」等が増加し、「子育て中の親同士の仲間作り」等が減少しています。



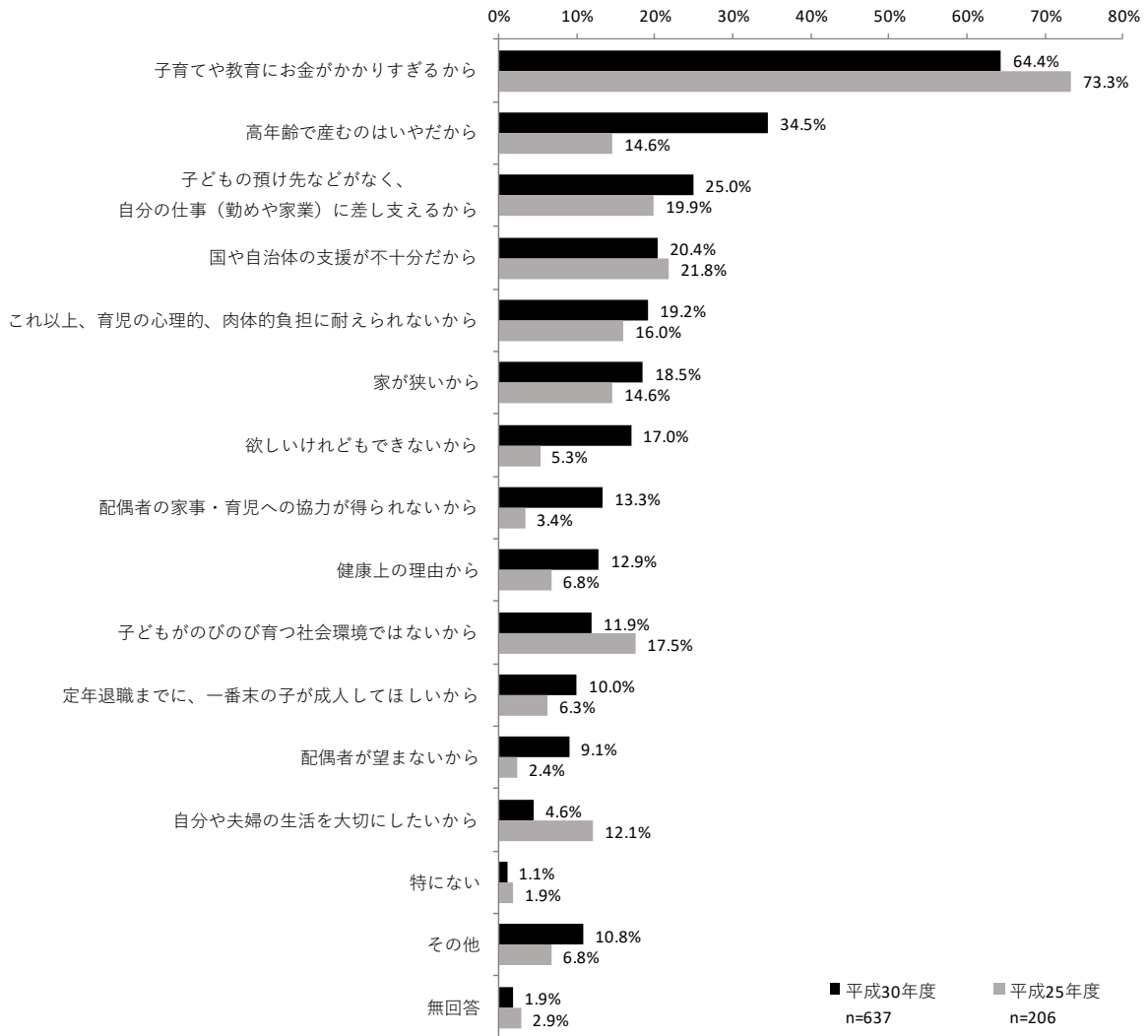
子どもを育てている現在の生活について、「どちらかといえば満足している」が44.3%と最も多く、次いで「満足している」が26.7%、「どちらともいえない」が17.8%となっています。

平成25年度調査結果と比較すると、「満足している」「どちらかといえば満足している」の「満足」側の回答が6.4ポイント減少しています。



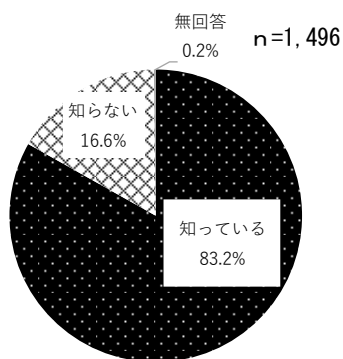


「持つつもりの子どもの人数」が、「理想的な子どもの人数」より少ない理由については、平成25年度調査結果と比較すると、「高年齢で産むのはいやだから」「子どもの預け先などがなく、自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから」等が増加しています。

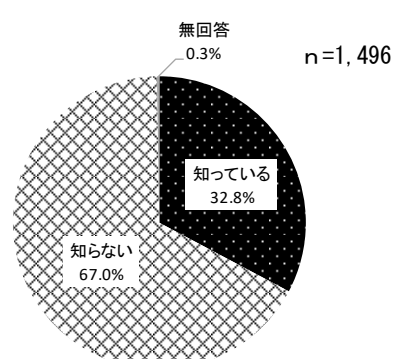


「子ども食堂」は83.2%の人が知っている一方、「無料学習塾」を知っていると回答した人は32.8%にとどまっています。

<子ども食堂>



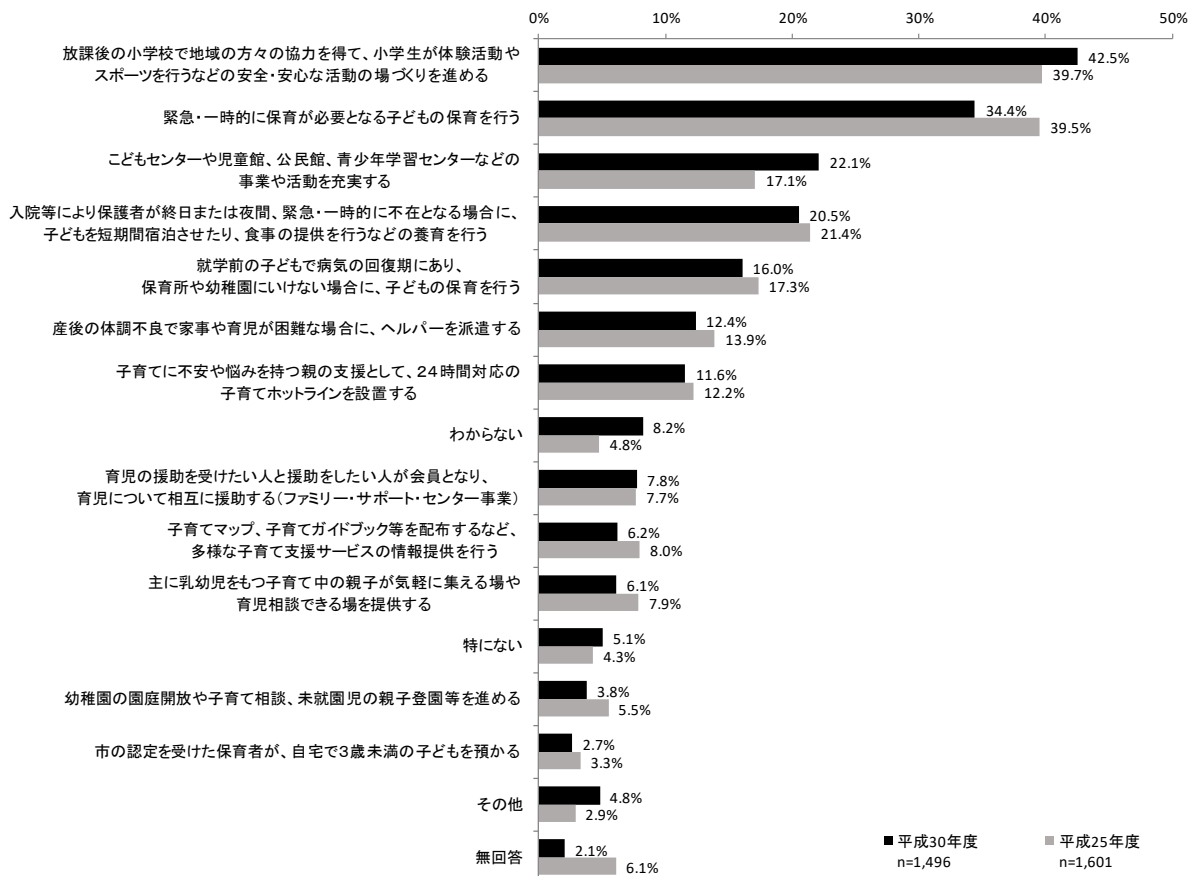
<無料学習塾>



## ◆ 市の取組等について

「地域における子育て支援サービス」として最も望まれるものは、「放課後の小学校で地域の方々の協力を得て、小学生が体験活動やスポーツを行うなどの安全・安心な活動の場づくりを進める」が42.5%と最も多く、次いで「緊急・一時的に保育が必要となる子どもの保育を行う」が34.4%、「こどもセンターや児童館、公民館、青少年学習センターなどの事業や活動を充実する」が22.1%となっています。

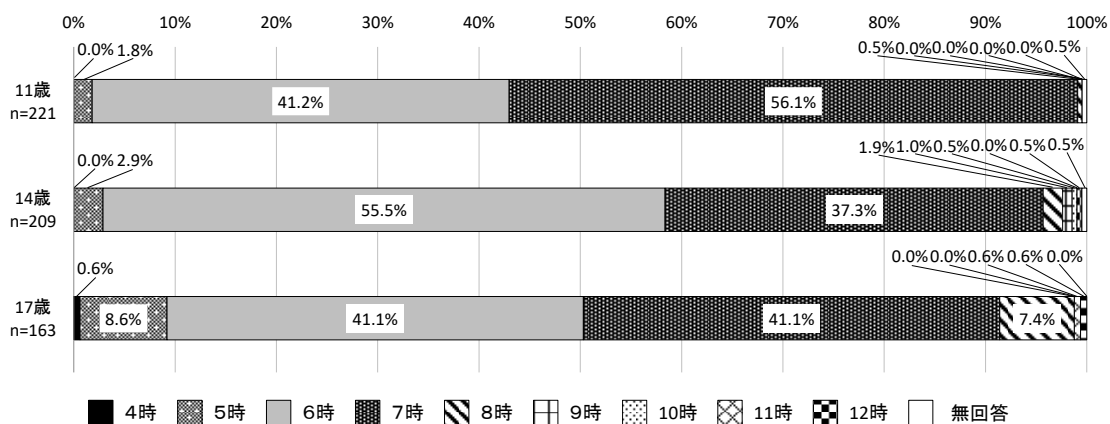
平成25年度調査結果と比較すると、「放課後の小学校で地域の方々の協力を得て、小学生が体験活動やスポーツを行うなどの安全・安心な活動の場づくりを進める」はやや増加、「緊急・一時的に保育が必要となる子どもの保育を行う」は減少、「こどもセンターや児童館、公民館、青少年学習センターなどの事業や活動を充実する」は増加しています。



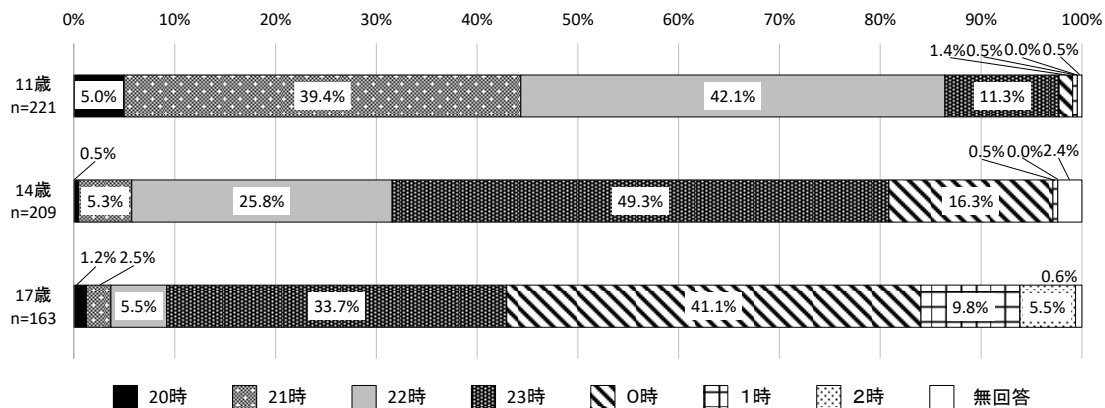
### (3) 調査種別3：子ども本人（11歳、14歳、17歳）対象調査

#### ◆ 日ごろの生活や活動について

平日の起床時間について、11歳では「7時」が56.1%、「6時」が41.2%、14歳では「6時」が55.5%、「7時」が37.3%、17歳では「6時」「7時」が41.1%となっています。



平日の就寝時間について、11歳では「22時」が42.1%、「21時」が39.4%、14歳では「23時」が49.3%、「22時」が25.8%、17歳では「0時」が41.1%、「23時」が33.7%となっています。

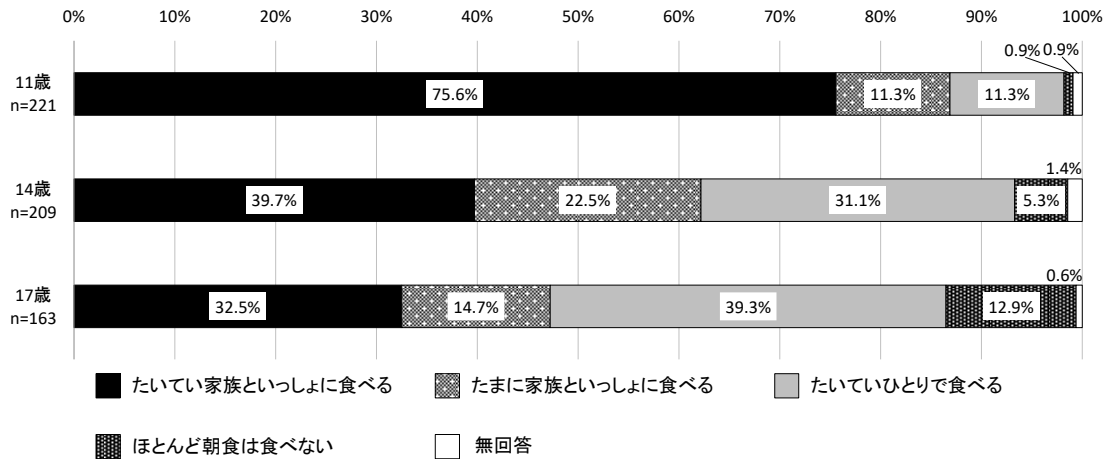




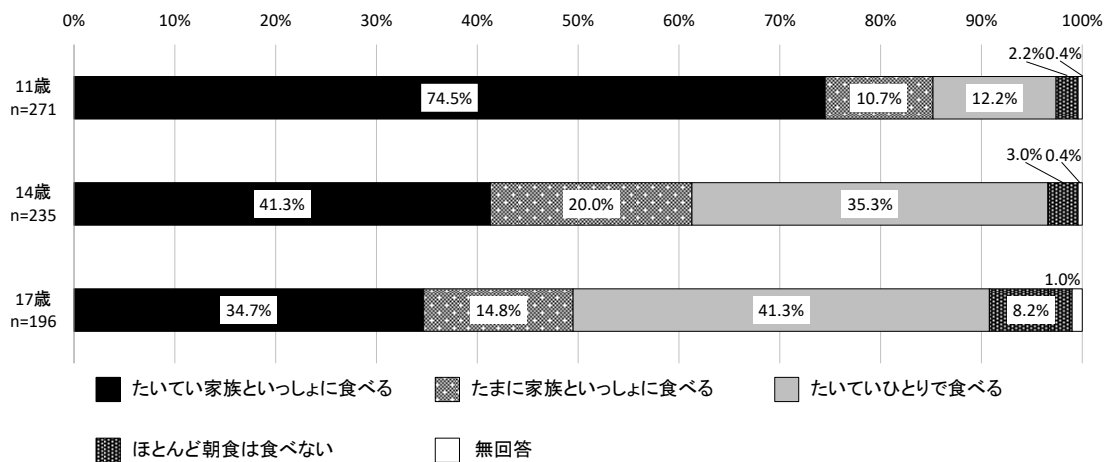
朝食を食べるときの状況は、平成 25 年度調査結果との大きな差異はなく、11 歳では「たいてい家族といっしょに食べる」が 7 割を超えています。14 歳では、「たいてい家族といっしょに食べる」が 4 割弱となっています。17 歳では、「たいていひとりで食べる」が最も多く、4 割弱となっています。

### 【朝食】

#### <平成 30 年度>



#### <平成 25 年度>

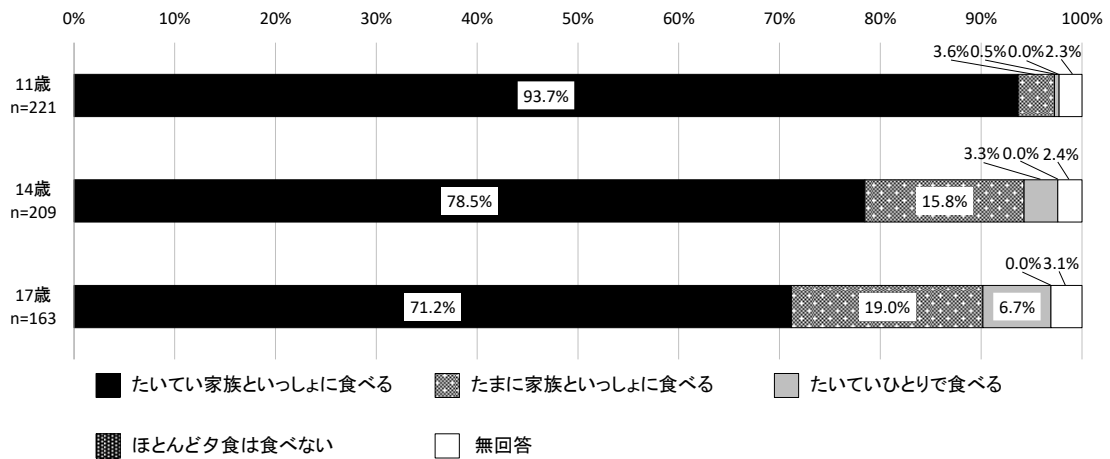




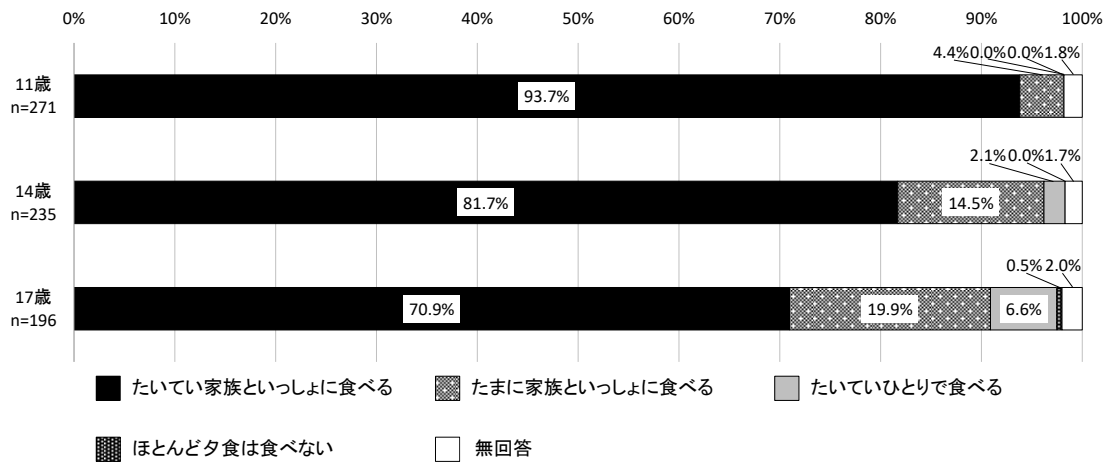
夕食を食べるときの状況は、平成 25 年度調査結果との大きな差異はなく、11 歳では「たいてい家族といっしょに食べる」が9割を超えています。14 歳では、「たいてい家族といっしょに食べる」が 8 割弱となっています。17 歳では、「たいてい家族といっしょに食べる」が7割を超えています。

### 【夕食】

#### <平成 30 年度>



#### <平成 25 年度>



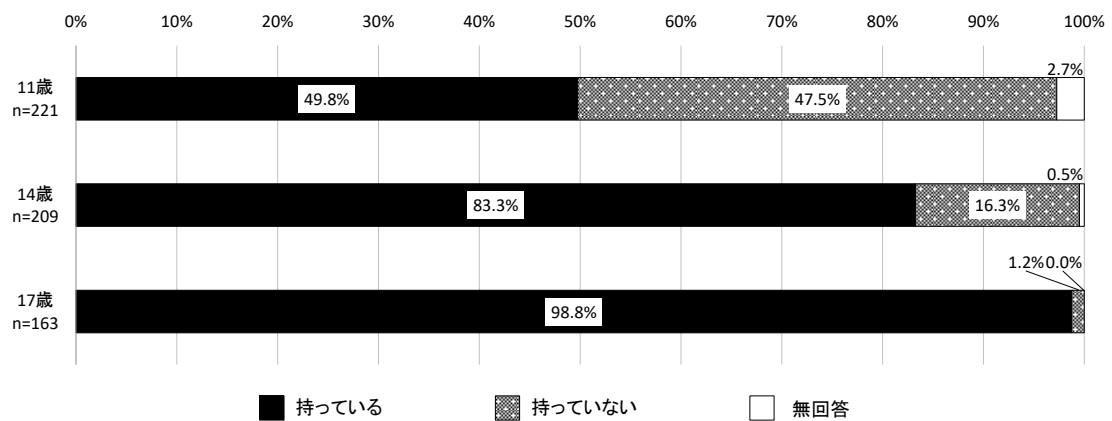


## ◆ 日ごろの生活や活動について

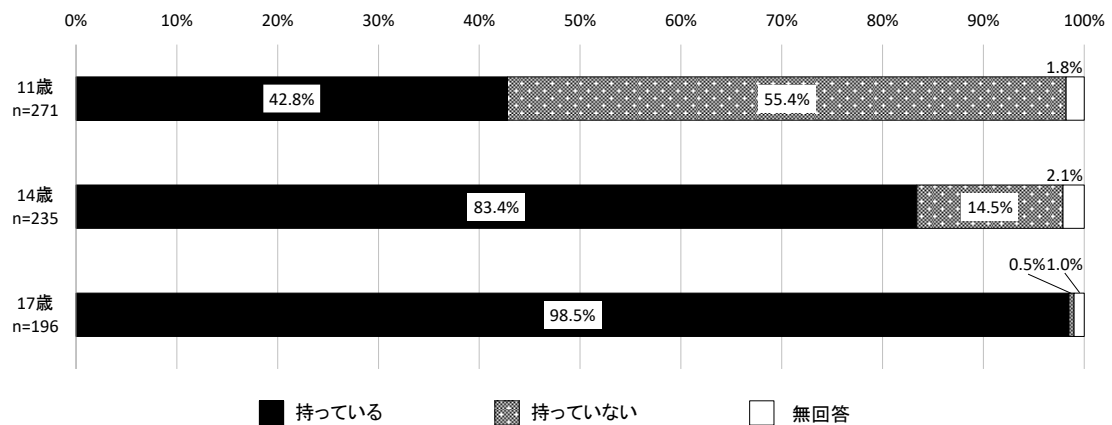
自分の携帯電話・スマートフォンについて「持っている」という回答は、11歳で49.8%、14歳で83.3%、17歳で98.8%となっています。

平成25年度調査結果と比較すると、11歳での「持っている」との回答が7.0ポイント増加していますが、14歳、17歳においては大きな差異はありません。

### <平成30年度>



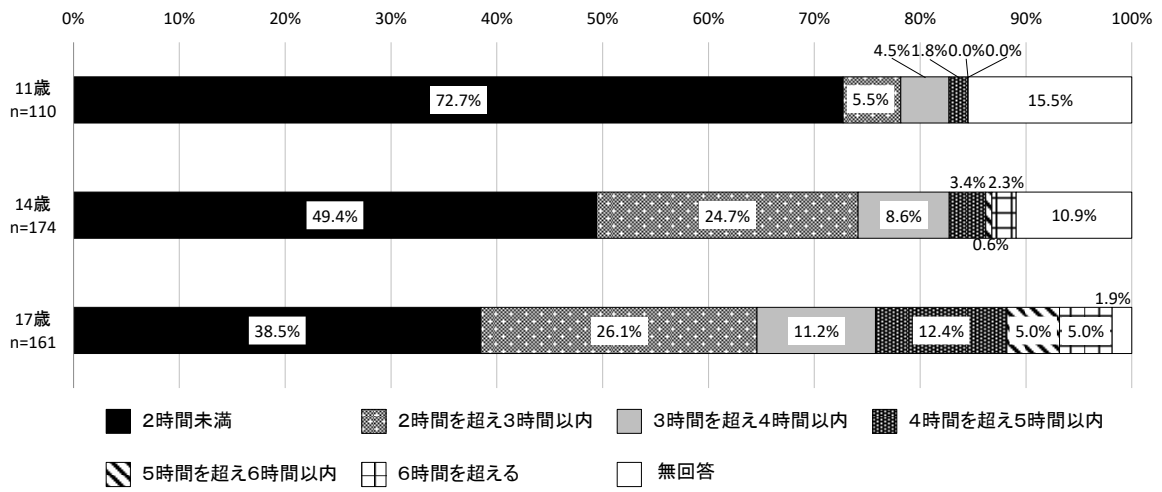
### <平成25年度>



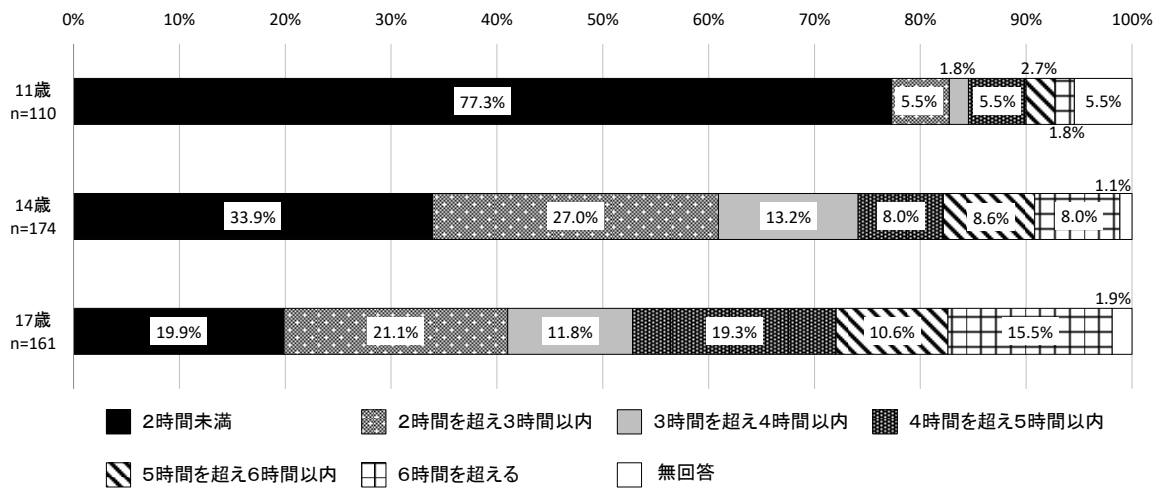




自分の携帯電話・スマートフォンを持っている人の平日1日あたりの使用時間は、「2時間未満」が11歳で72.7%、14歳で49.4%、17歳で38.5%となっています。



一方、休日1日あたりの使用時間は、「2時間未満」が11歳で77.3%、14歳で33.9%、17歳で19.9%となっています。

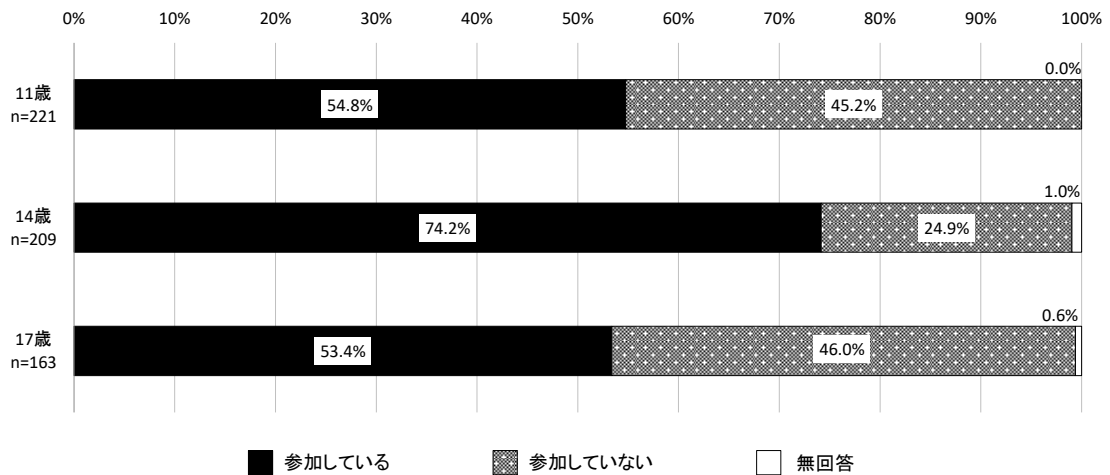




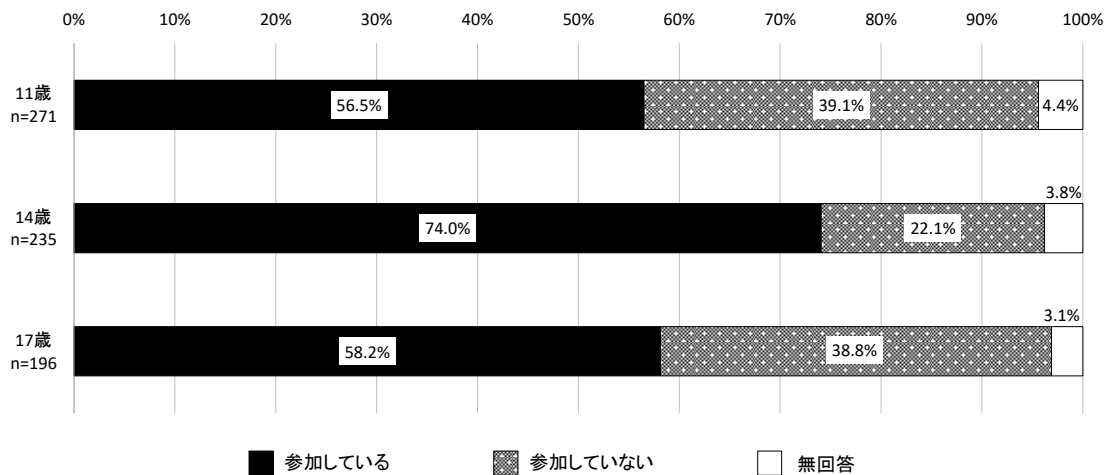
日ごろの地域活動や部活動、子ども会などの活動への参加について、11歳では「参加している」が54.8%、「参加していない」が45.2%、14歳では「参加している」が74.2%、「参加していない」が24.9%、17歳では「参加している」が53.4%、「参加していない」が46.0%となっています。

平成25年度調査結果との比較では、大きな差異はありません。

### <平成30年度>



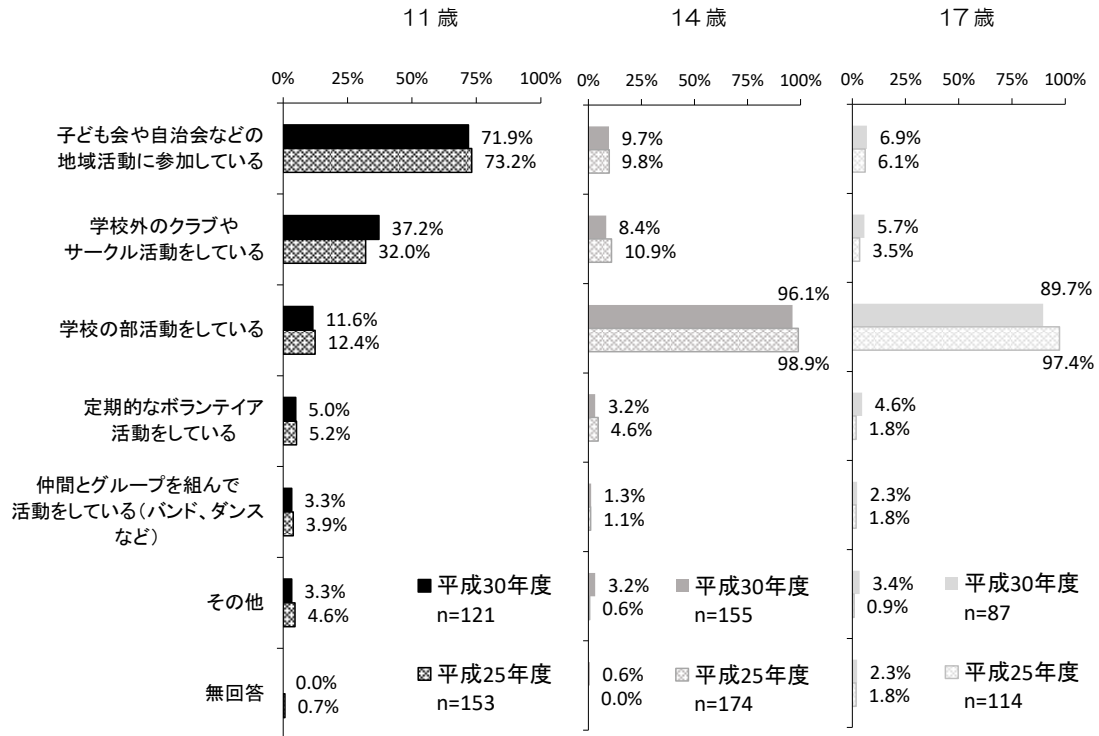
### <平成25年度>





日ごろの地域活動や部活動、子ども会などの活動へ参加している人の活動については、11歳では「子ども会や自治会などの地域活動に参加している」(71.9%)、14歳及び17歳では「学校の部活動をしている」(14歳96.1%、17歳89.7%)が最も多くなっています。

平成25年度調査結果との比較では、14歳及び17歳で「学校の部活動をしている」がやや減少しています。

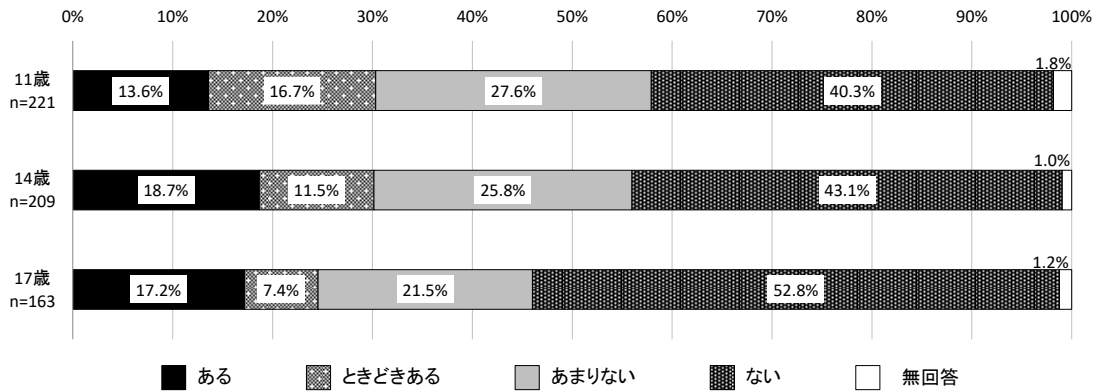


## ◆ 子どもの権利について

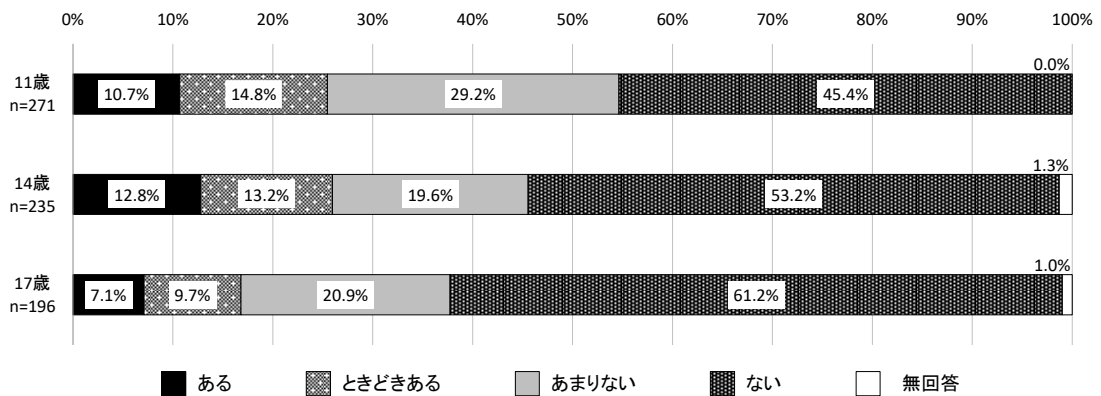
子どもに対する虐待について、「たたかれたり、つねられたりする」「言葉でおどされたり、無視されたりする」と回答している人が、平成 25 年度調査結果と比較すると増加傾向にあります。

【たたかれたり、つねられたりする】

<平成 30 年度>



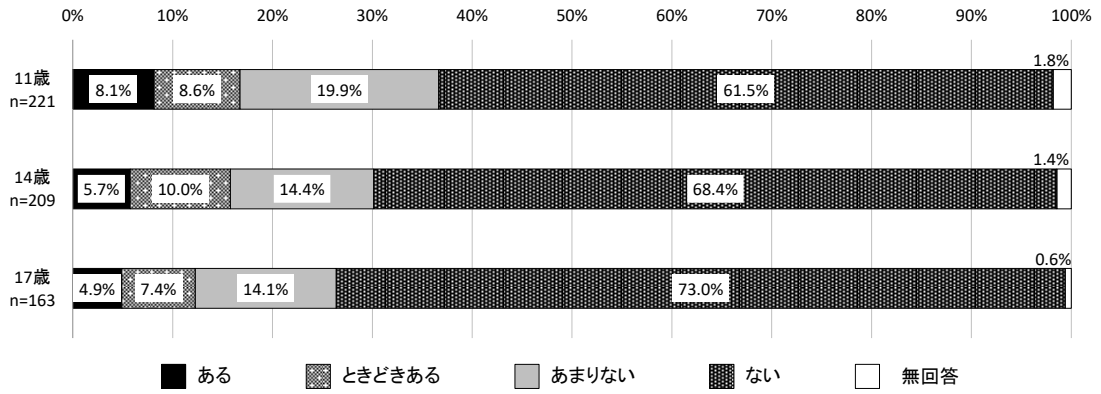
<平成 25 年度>



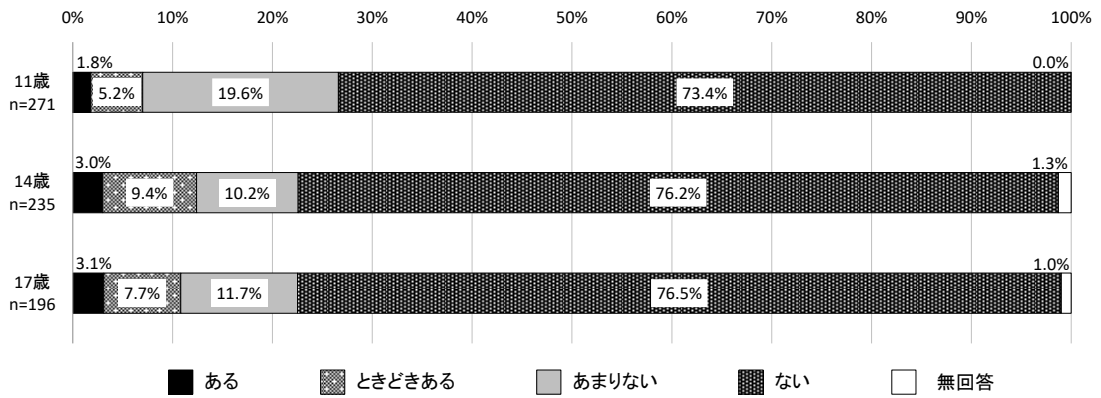


【言葉でおどされたり無視される】

<平成30年度>



<平成25年度>

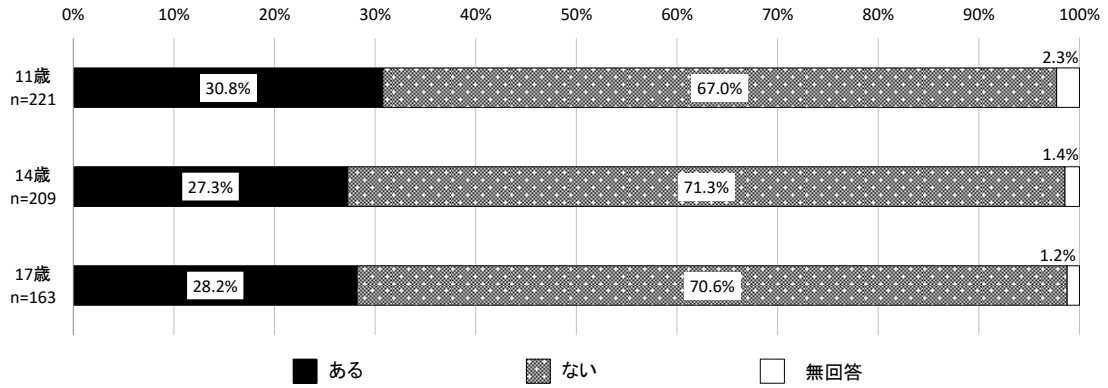




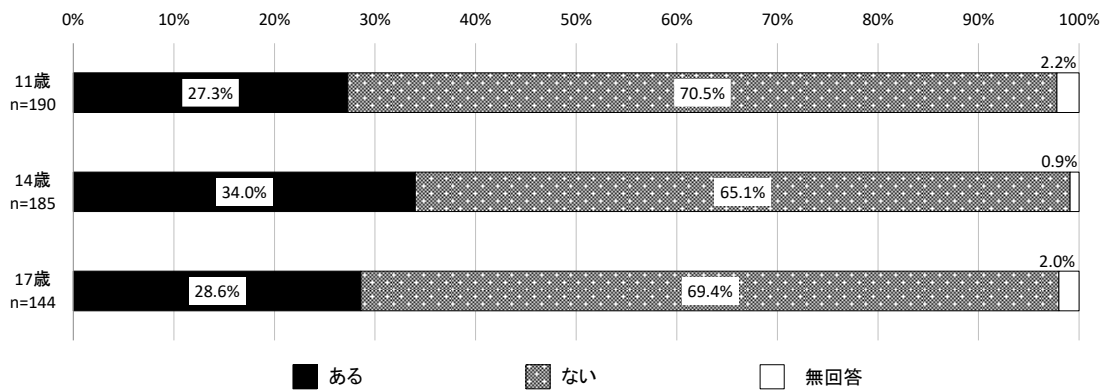
つらくてどうしようもないことを人から言われたり、されたりしたことがあるかについて、「ない」が11歳で67.0%、14歳で71.3%、17歳で70.6%となっています。

平成25年度調査結果と比較すると、「ある」が14歳で6.7ポイント減少しています。

<平成30年度>



<平成25年度>

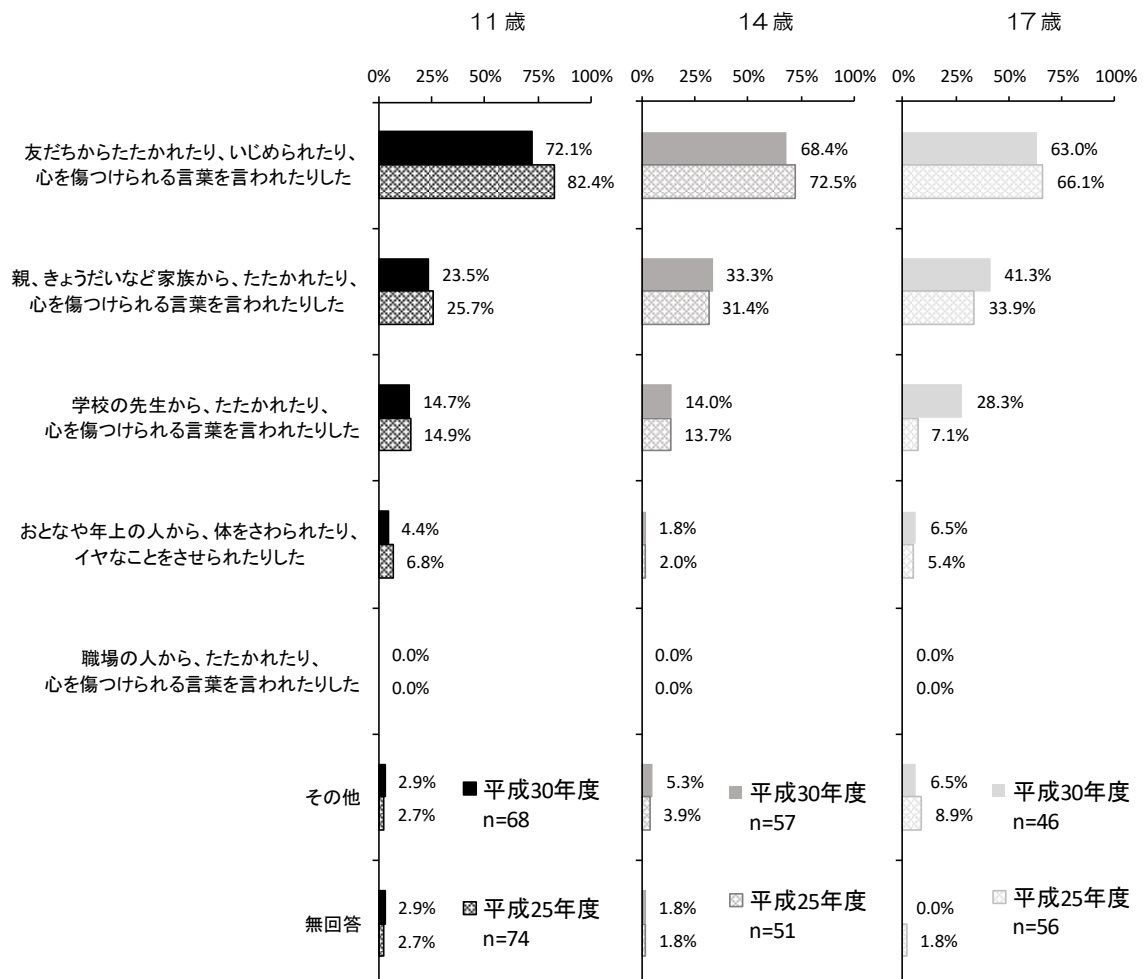




つらくてどうしようもないことを人から言われたり、されたりしたことがある人に、それはどんなことかと尋ねたところ、11歳では、「友だちからたたかれたり、いじめられたり、心を傷つけられる言葉を言われたりした」が72.1%と最も多くなっていますが、平成25年度調査結果と比較し減少傾向にあります。

14歳では、「友だちからたたかれたり、いじめられたり、心を傷つけられる言葉を言われたりした」が68.4%と最も多く、平成25年度調査結果と比較し大きな差異はありません。

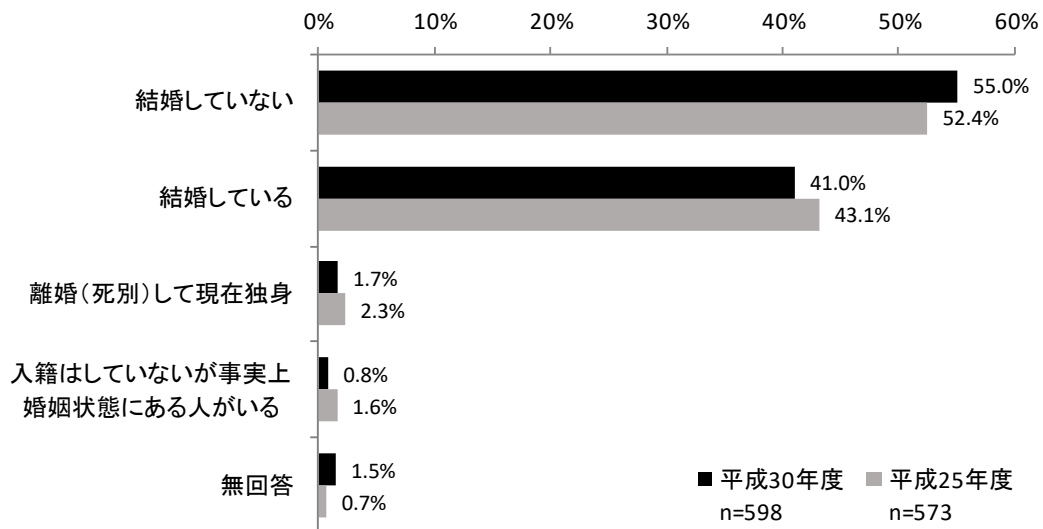
17歳では、「友だちからたたかれたり、いじめられたり、心を傷つけられる言葉を言われたりした」が63.0%と最も多くなっており、次いで「親、きょうだいなど家族から、たたかれたり、心を傷つけられる言葉を言われたりした」が41.3%、「学校の先生から、たたかれたり、心を傷つけられる言葉を言われたりした」が28.3%となっています。平成25年度調査結果と比較すると、「学校の先生から、たたかれたり、心を傷つけられる言葉を言われたりした」が増加傾向にあります。



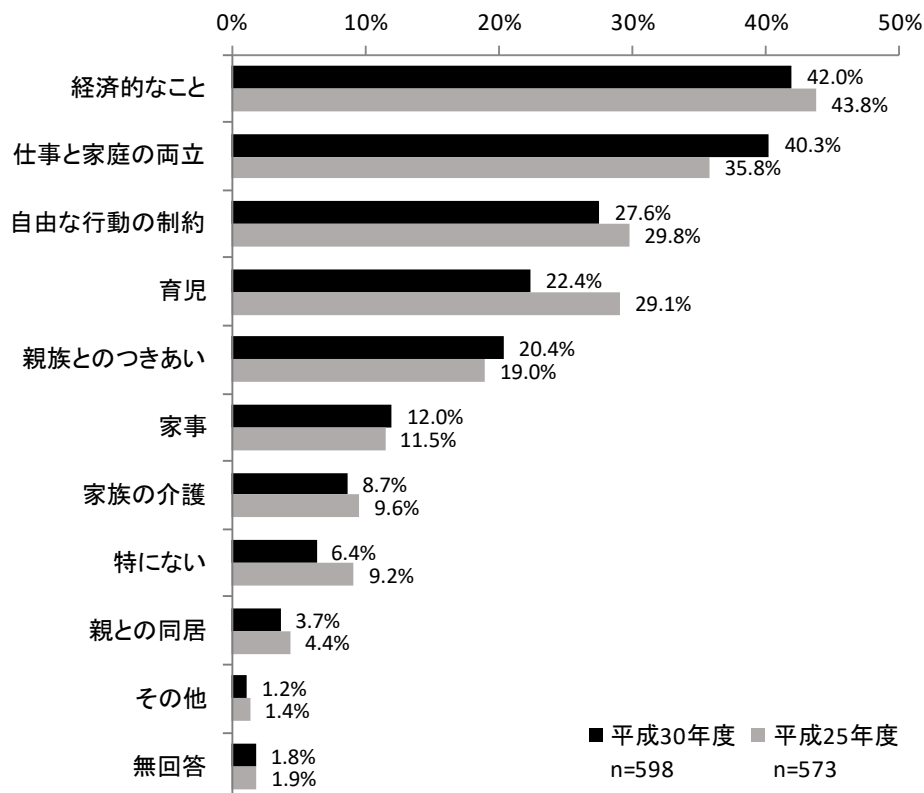
## (4) 調査種別4：青年男女（20歳、25歳、30歳、35歳）対象調査

### ◆ ご自身とご家族のことについて

現在の結婚の状況については、平成25年度調査結果と比較して大きな差異はなく、「結婚していない」が約5割、「結婚している」は約4割となっています。



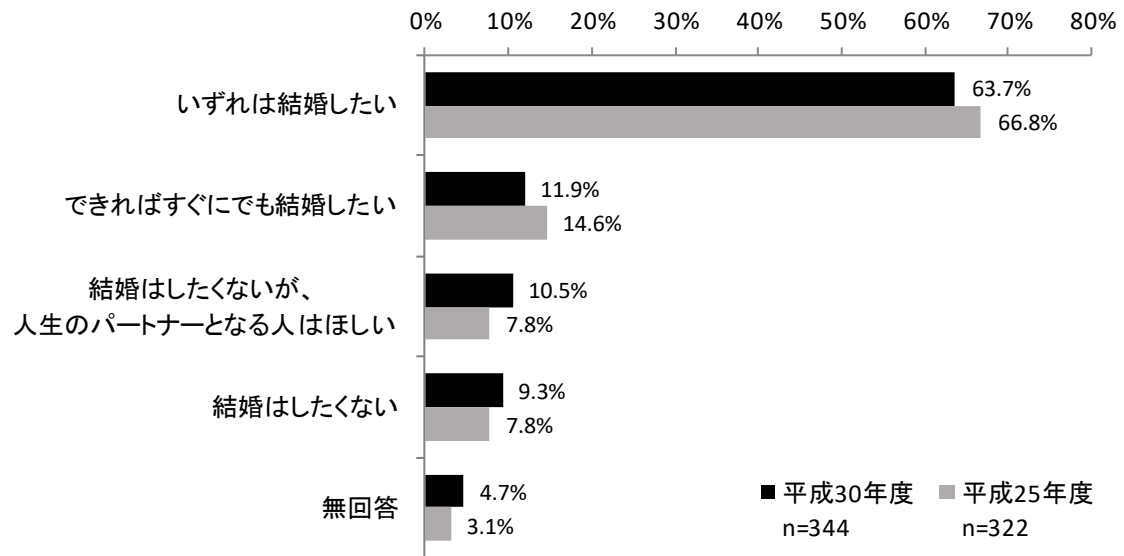
また、結婚について感じる心配や大変さについては、平成25年度調査結果と比較して、「仕事と家庭の両立」が増加する一方、「育児」は減少しています。





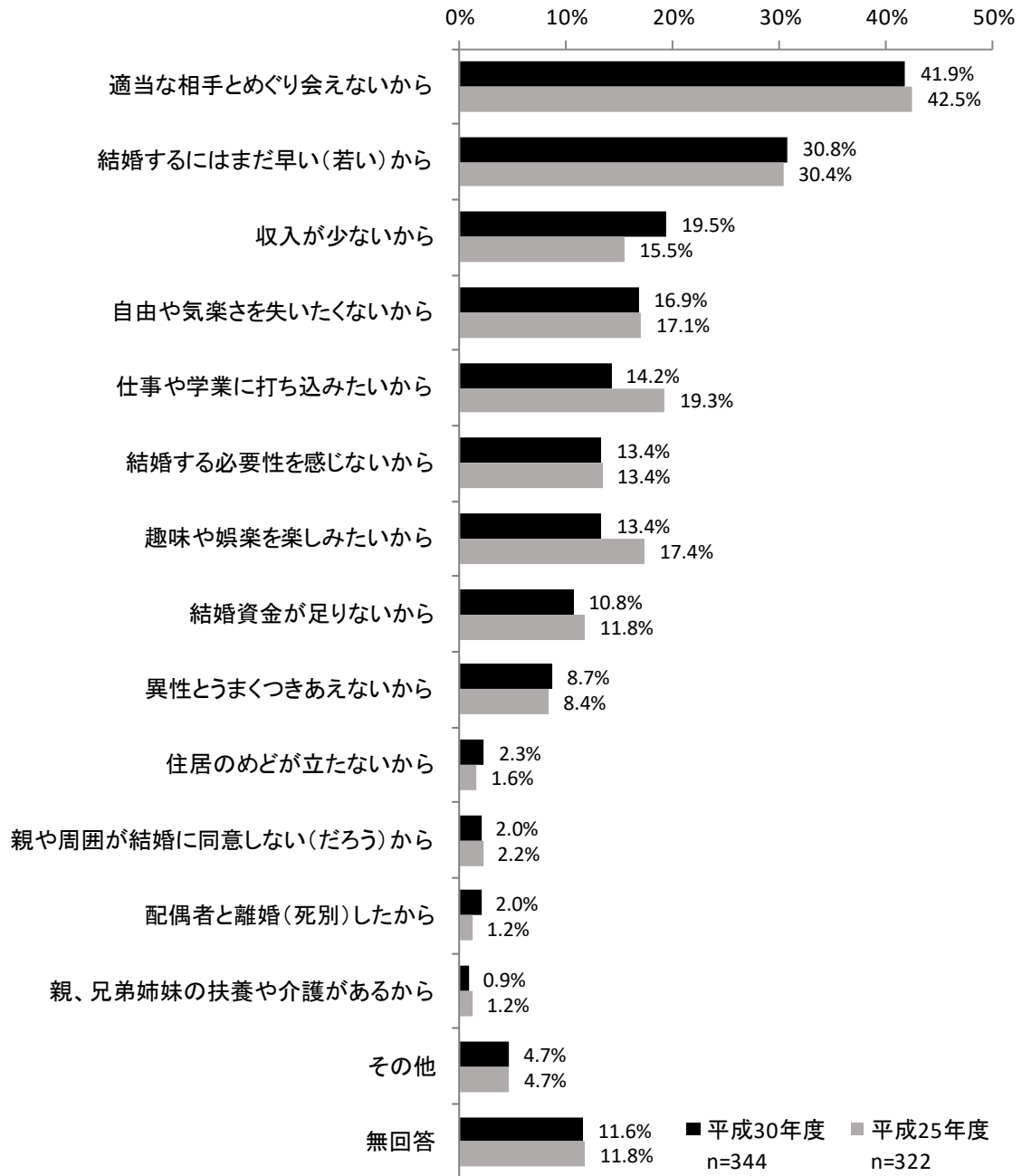


「結婚していない」「事実婚状態にある人がいる」「離婚（死別）して現在独身」という人の結婚についての考えは、平成 25 年度調査結果と比較して大きな差異はなく、「できればすぐにでも結婚したい」「いずれは結婚したい」と回答した人が、7割を超えています。





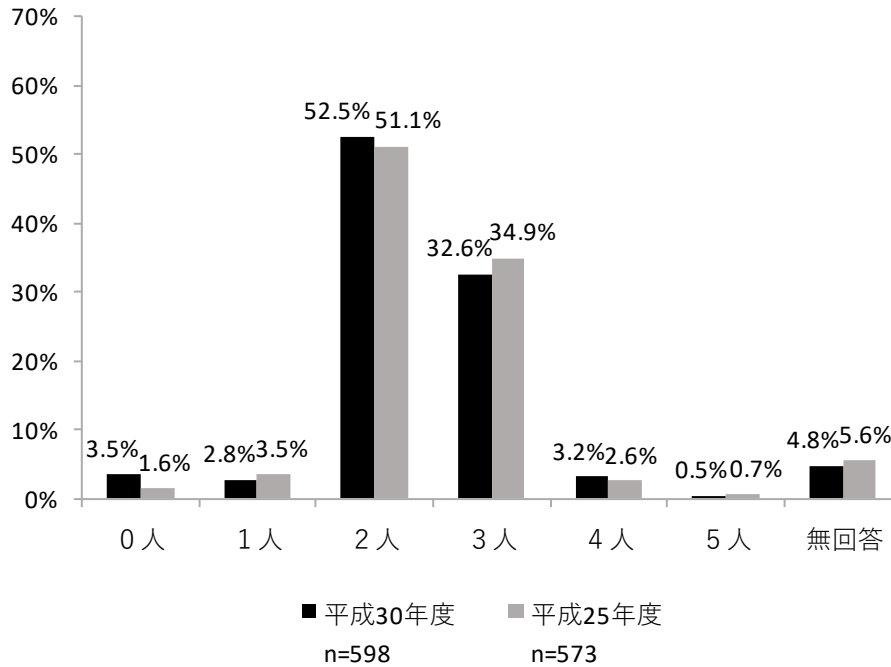
また、「結婚していない」「事実婚状態にある人がいる」「離婚（死別）して現在独身」であることの原因（結婚しない理由）は、平成 25 年度調査結果と比較して大きな差異はなく、「適当な相手とめぐり会えないから」が約4割と最も多く、次いで「結婚するにはまだ早い（若い）」が約3割となっています。





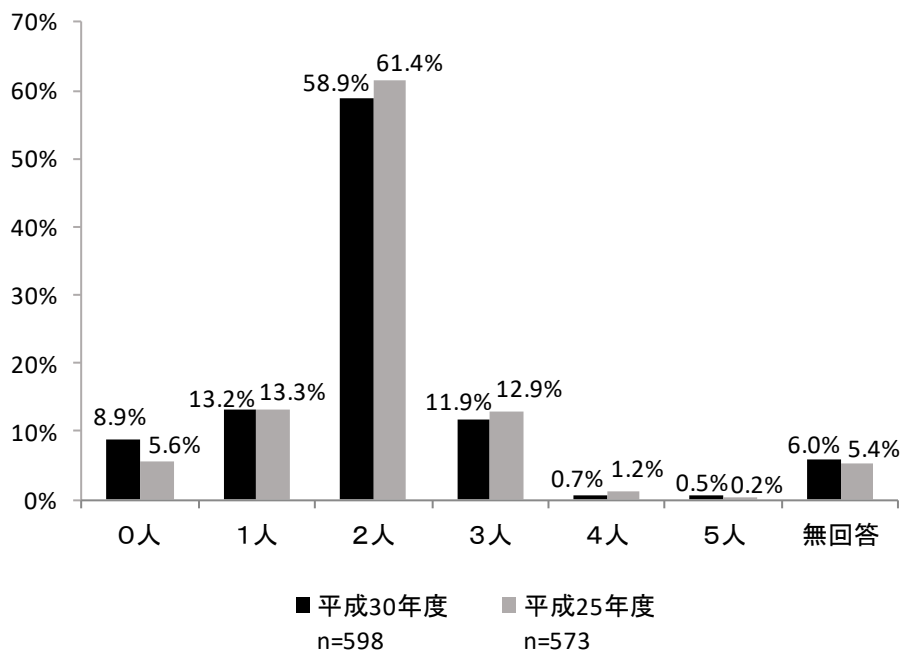
理想的な子どもの人数は、平成 25 年度調査結果と比較して大きな差異はなく、「2人」が約5割と最も多く、次いで「3人」が約3割となっています。

<理想的な子どもの人数>



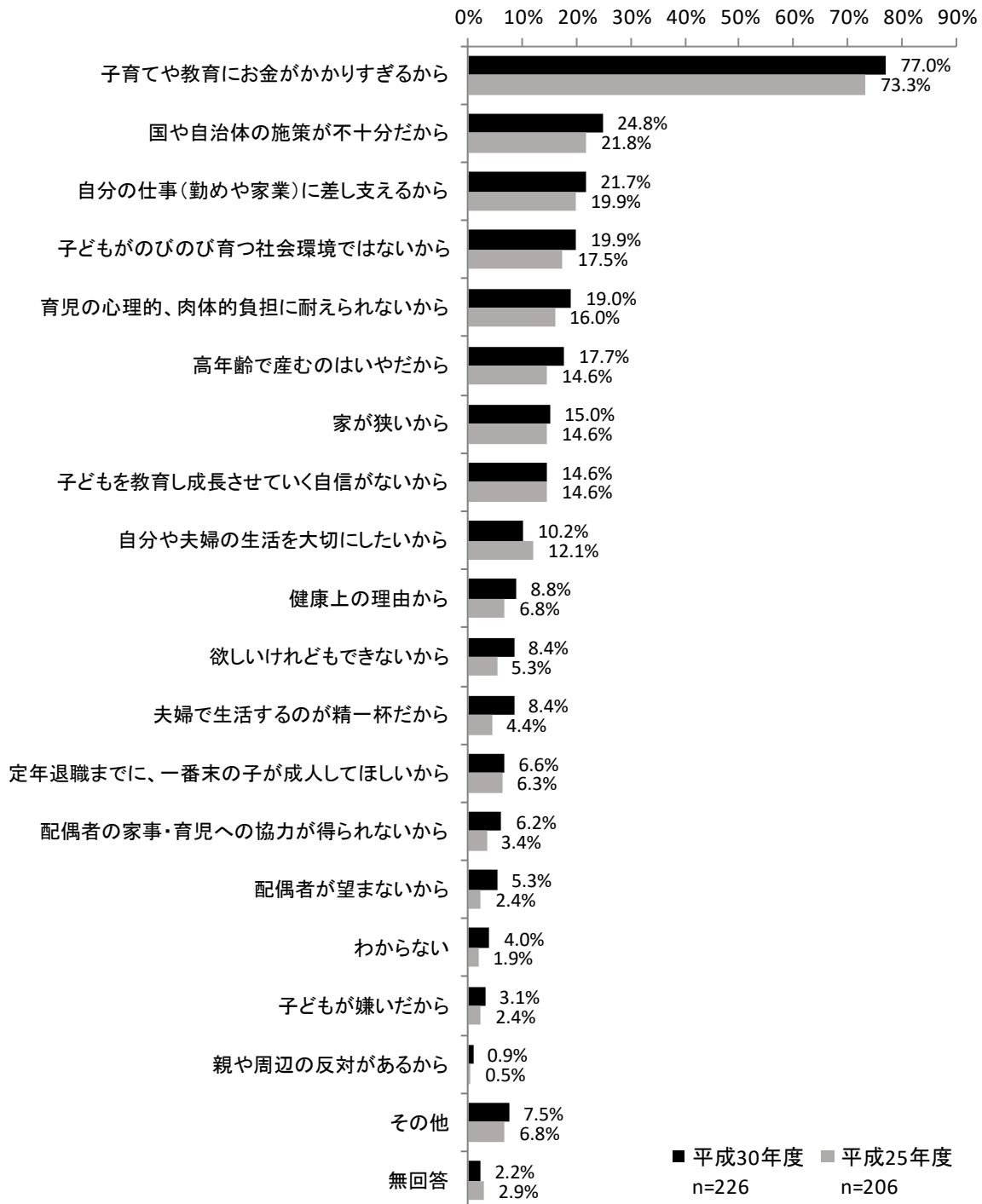
持つつもりの子どもの人数も、平成 25 年度調査結果と比較して大きな差異はなく、「2人」が約6割と最も多く、次いで「1人」と「3人」がそれぞれ約1割となっています。

<持つつもりの子どもの人数>



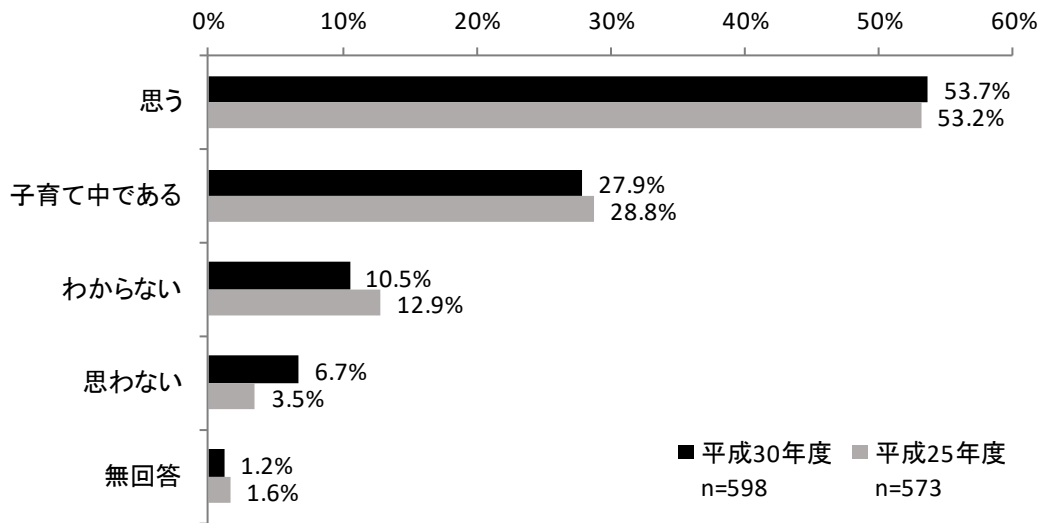


「持つつもりの子どもの人数」が、「理想的な子どもの人数」より少ない理由は、平成 25 年度調査結果と比較して大きな差異はなく、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が7割を超えています。





将来、子どもを持ちたい（子育てをしたい）と「思う」と回答した人は、平成25年度調査結果と比較して大きな差異はなく、5割を超えています。



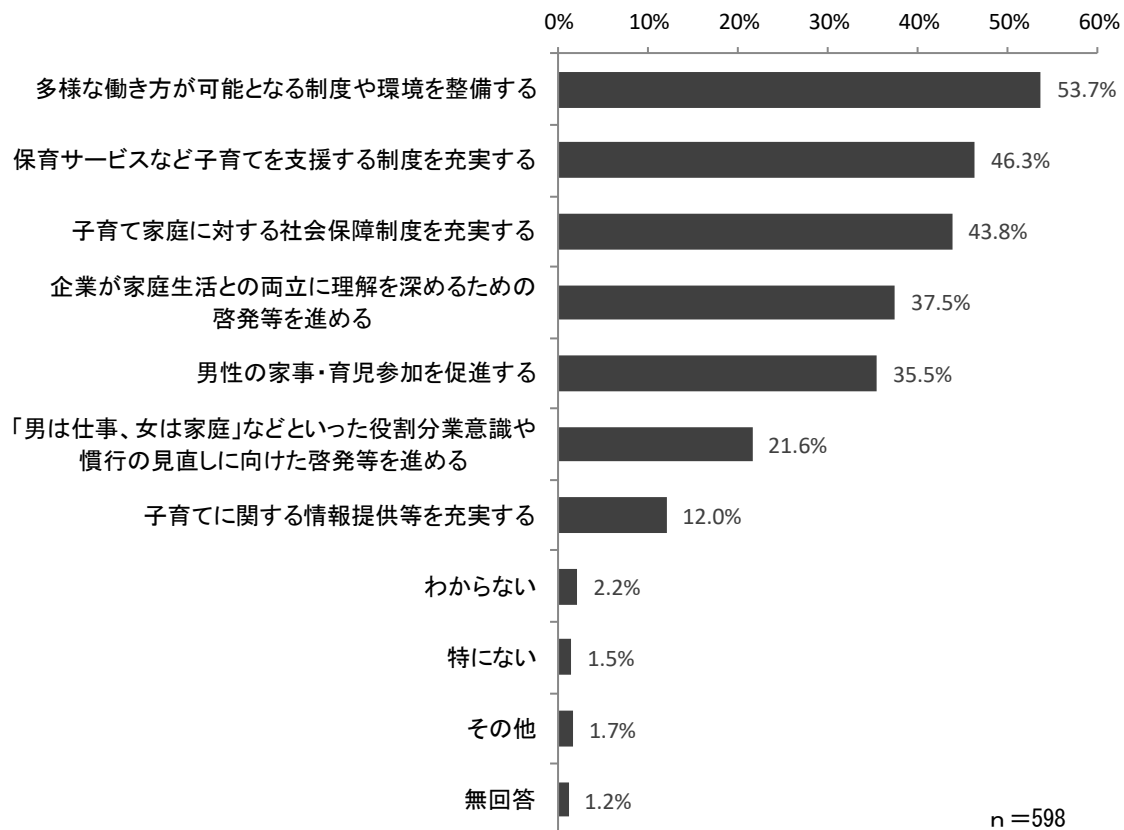
一方、将来、子どもを持ちたい（子育てをしたい）と「思わない」理由は、「自分の生活を楽しみたいから」が17人と最も多く、次いで「子育ての経済的負担に耐えられないと思うから」が11人、「子どもは嫌いだから」「子育ては面倒だから」「仕事を優先したいから」がそれぞれ8人となっています。

(単位：人)

自分の生活を楽しみたいから	子育ての経済的負担に耐えられないと思うから	子どもは嫌いだから	子育ては面倒だから	仕事を優先したいから	自分が子どもを虐待するのではないかと	出産、子育ての知識や自信がないから	子育ての責任が女性にかたよっているから	受験戦争や仕事に就けないなど、子どもにとってふさわしい世の中とは思えないから	子どもは言うことをきかないから	いじめや差別、不登校など、子どもを取り巻く問題があるから	現在の住宅が子育てにふさわしい世の中とは思えないから	特になし	整め先の育児休暇制度や保育サービスが	子どもが安心して遊べるところが整っていないから	その他	無回答	
n=40	17	11	8	8	8	7	7	6	4	3	3	3	2	1	0	4	2

## ◆ 子育ての環境について

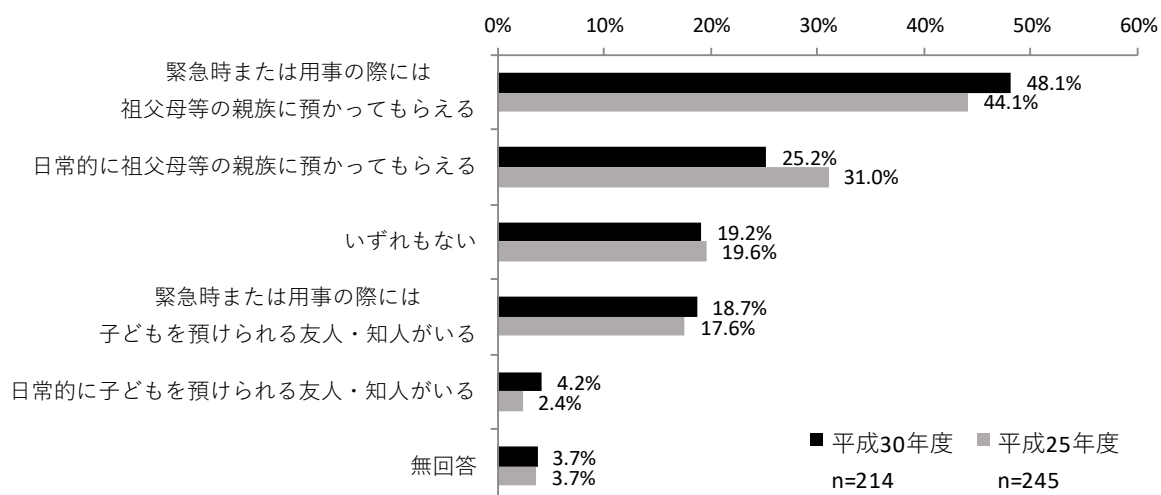
「職業生活と家庭生活との両立の推進」として最も望まれるものについて、「多様な働き方が可能となる制度や環境を整備する」が53.7%と最も多く、次いで「保育サービスなど子育てを支援する制度を充実する」が46.3%、「子育て家庭に対する社会保障制度を充実する」が43.8%となっています。



## (5) 調査種別5：ひとり親家庭の人対象調査

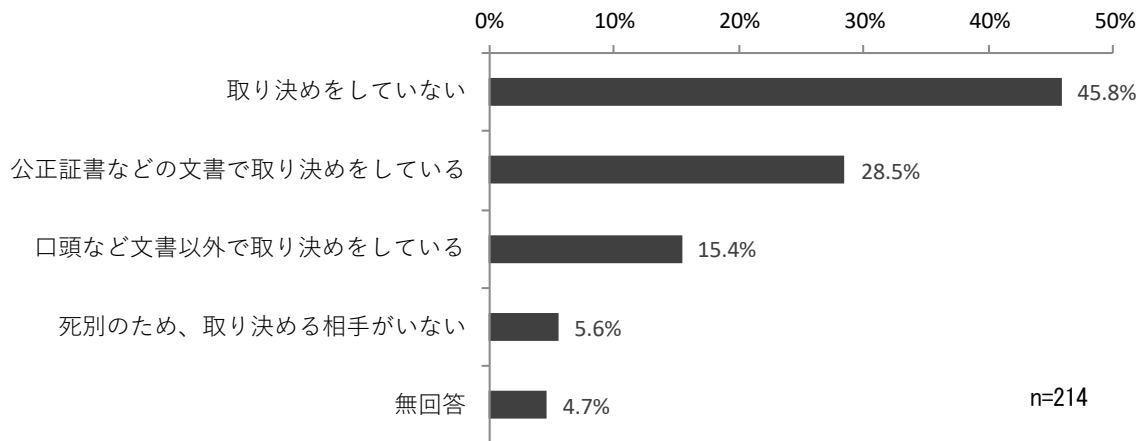
### ◆ 世帯の状況について

祖父母や親族、または友人・知人等による、子育てに対する支え（育児を手伝ってくれることなど）について、平成 25 年度調査結果と比較すると、「日常的に祖父母等の親族に預かってもらえる」が減少しています。

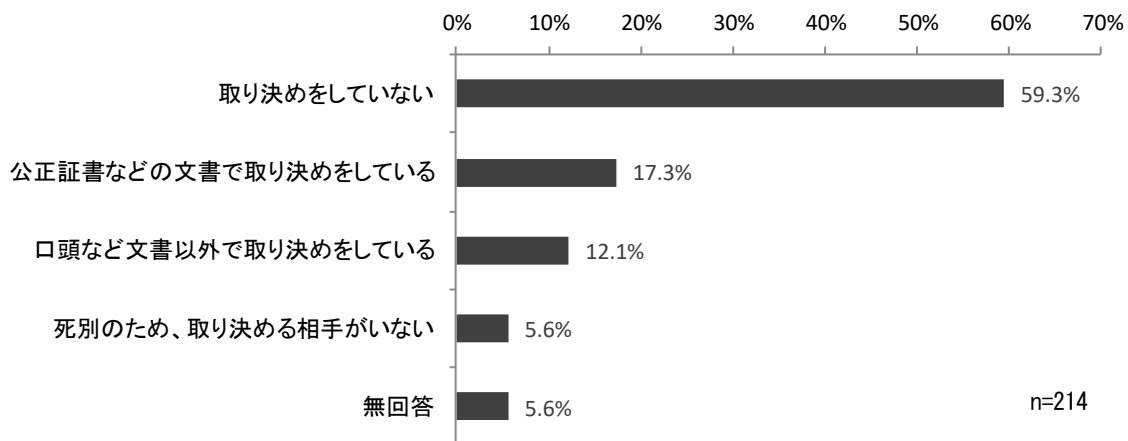


## ◆ 現在の生活状況について

子どもの養育費について「取り決めをしていない」が 45.8%と最も多く、次いで「公正証書などの文書で取り決めをしている」が 28.5%、「口頭など文書以外で取り決めをしている」が 15.4%となっています。



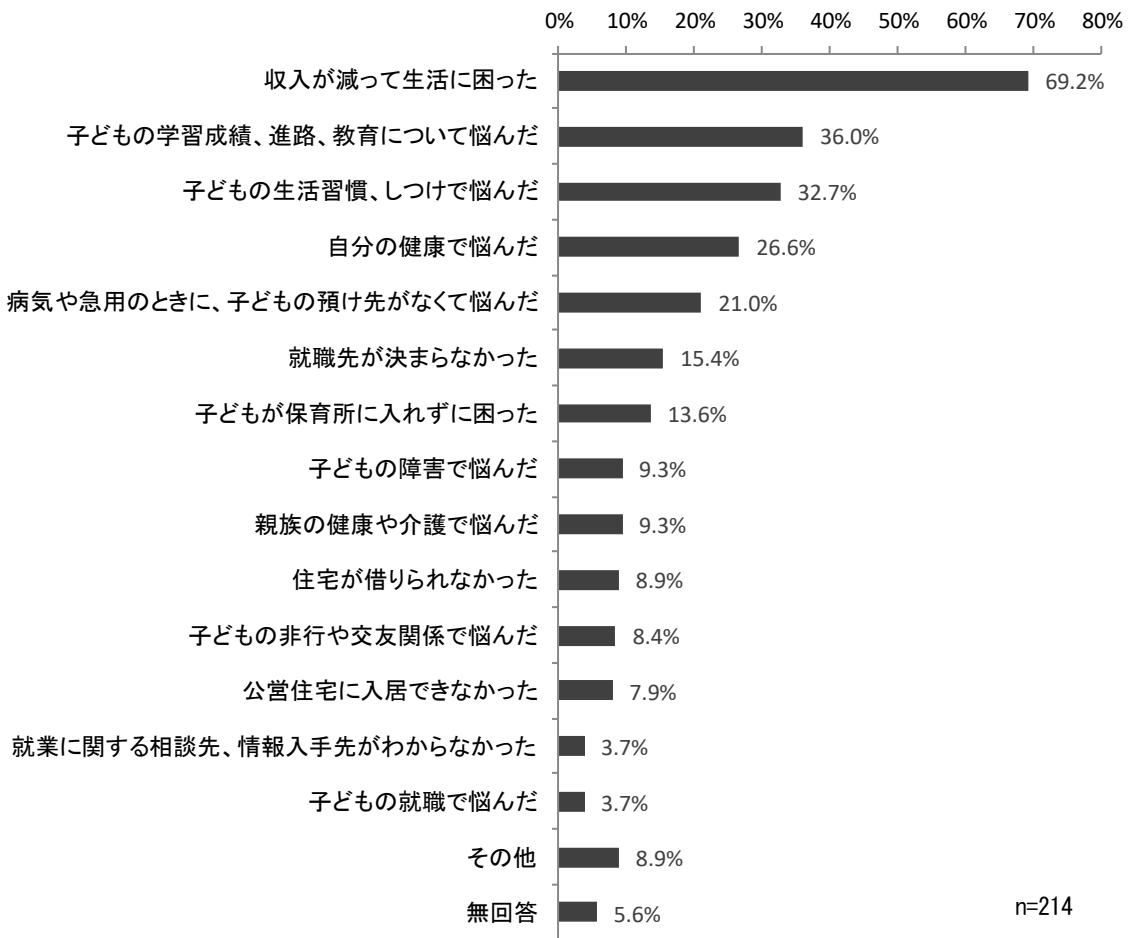
子どもの面会交流について「取り決めをしていない」が 59.3%と最も多く、次いで「公正証書などの文書で取り決めをしている」が 17.3%、「口頭など文書以外で取り決めをしている」が 12.1%となっています。





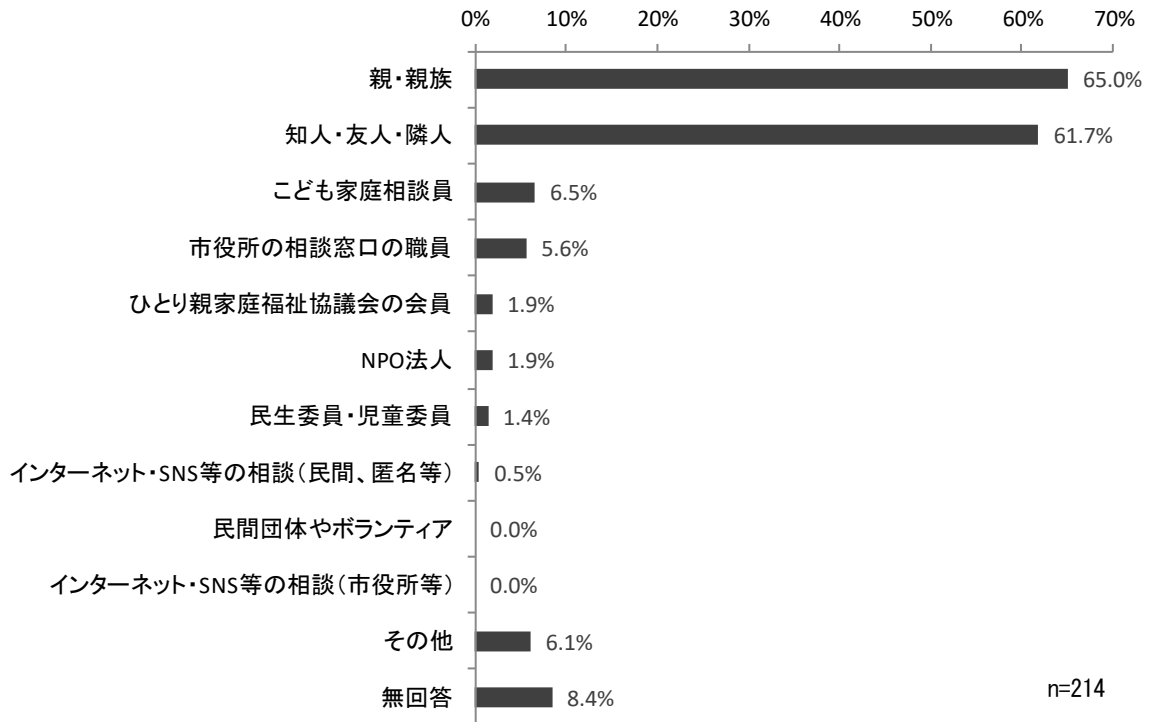


ひとり親家庭になったときに、困ったこと、悩んだことは、「収入が減って生活に困った」が69.2%と最も多く、次いで「子どもの学習成績、進路、教育について悩んだ」が36.0%、「子どもの生活習慣、しつけで悩んだ」が32.7%となっています。



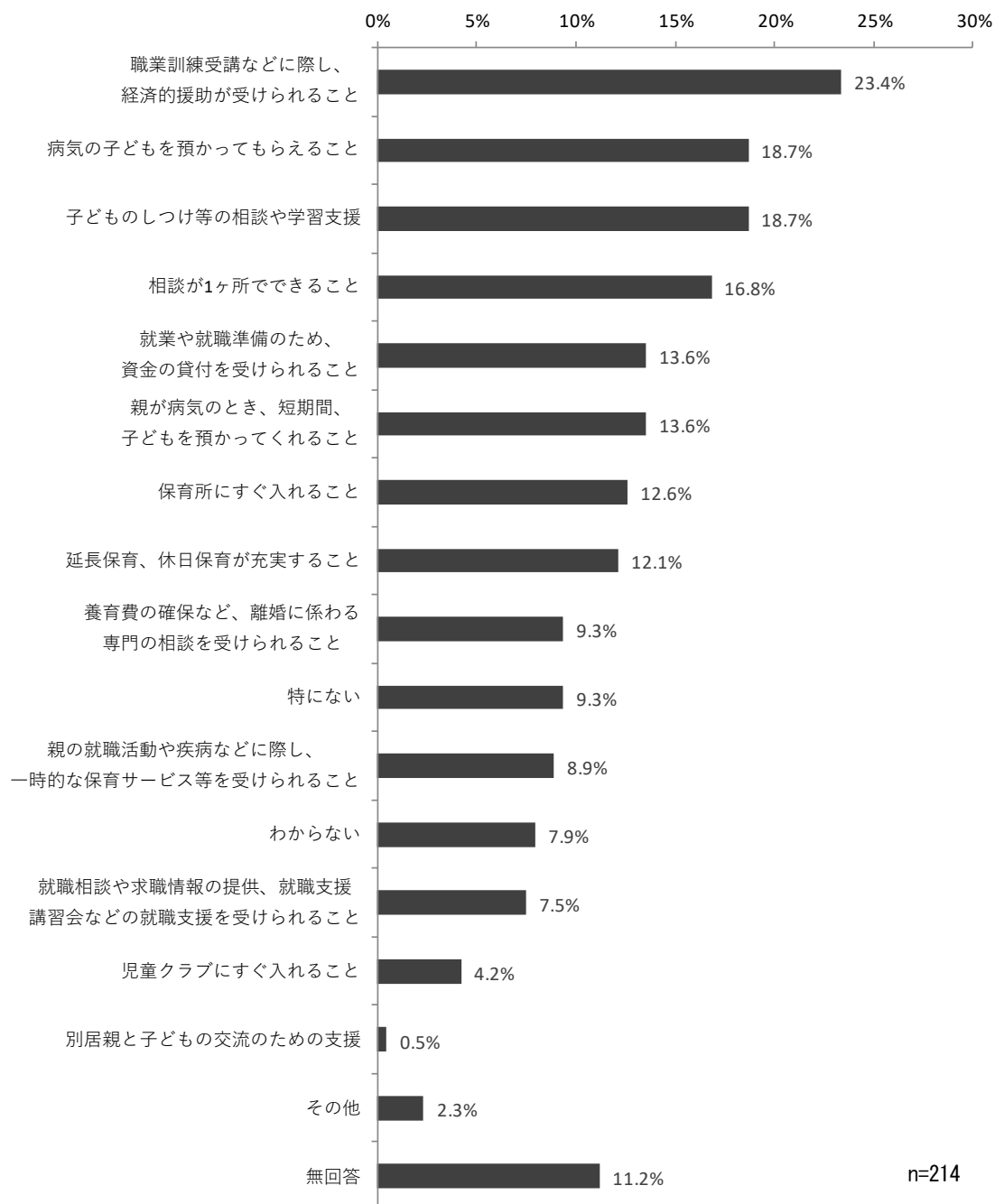


相談できる相手（相談できる人がいる場合）や、相談したい人（相談できる人がいない場合）は、「親・親族」が65.0%と最も多く、次いで「知人・友人・隣人」が61.7%となっています。



## ◆ ひとり親家庭への自立支援施策について

就職や仕事のために望む行政からの支援については、「職業訓練受講などに際し、経済的援助が受けられること」が23.4%と最も多く、次いで「病気の子どもを預かってもらえること」「子どものしつけ等の相談や学習支援」がそれぞれ18.7%となっています。



### 3 ヒアリング調査の結果概要

#### ◆ 施設が果たすべき役割について

##### 【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、施設が果たす役割として、「安全対策」、「日々の子どもの状況の把握及び連絡」、「子どもの発育にあった保育内容の確保」などの回答が多くありました。

利用者へのヒアリングでは、施設へ期待することとして、「安全対策が適切にとられていること」、「子どもの発育にあった保育内容であること」などの回答が多くあり、施設側が考えている役割との一致が見られました。

##### 【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、施設が果たす役割として、「安心、安全で健全な遊び場」、「異年齢交流の場」、「自宅と同じようなくつろぎの場」、「放課後の子どもの面倒を見る場所」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「安心して子どもが過ごせる場」、「子どもが楽しく遊びを行う場」、「社会性を培う場」などの回答が多くあり、「安心」や「社会性」（「異年齢交流の場」）の面で施設側が考えている役割との一致が見られました。

一方、施設側は、「ゆったりした気持ちで帰宅する場」「放課後の子どもの面倒を見る場所」を重視している点で、学校～施設～自宅といった1日の生活の中において、子ども達の「健やかな生活」の連続性の確保に配慮していることがうかがえます。

#### ◆ 役割を果たすために必要なスキルについて

##### 【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、役割を果たすための自身の資質向上として、「日々の出来事などを職員間のミーティングで共有し、解決に向けたディスカッションをおこなっている」、「研修に参加し職員間で成果について共有している」、「保護者とのコミュニケーション」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、スタッフに必要なスキルとして「研修会への参加」、「新聞や本等での情報収集」、「子どもの様子を話し、良い所を伝える」など回答が多くあり、知識の習得や利用者との情報共有の面で、施設側が考えている資質向上の方策との一致が見られました。



#### 【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「子どもの育ちの様子の把握が適切なこと」、「子どもの特性を生かした配慮があること」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「ルール・マナー形成が適切になされていること」、「子どもの特性を生かした配慮があること」などの回答が多くあり、「子どもの特性を活かした配慮があること」については、施設側が考えている資質向上の方策との一致が見られました。

### ◆ 利用者（保護者）とのコミュニケーションについて（施設）

#### 【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「保護者が明るくなるような声掛けをするとともに、基本的には聞く側に徹する」、「保護者とのコミュニケーションが円滑にとれるような雰囲気をつくる」などの回答が多くあり、未就学児童の子育てに悩む保護者が相談しやすいよう、コミュニケーションしやすい雰囲気づくりに配慮していると考えられます。

#### 【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「各種行事における利用者とのコミュニケーションの強化」という回答が多くあり、コミュニケーションがとれる機会（各種行事）を捉えた保護者との情報共有に配慮していると考えられます。

### ◆ 施設の良いと思うところ、満足しているところについて（保護者）

幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設、こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設の利用者に共通して、「子どもが楽しそう」、「家から近い」などの回答が多くありました。

### ◆ 利用者の悩みなどの相談について

#### 【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「施設における子どもの様子」、「睡眠・食事等の基本的な生活習慣」、「身体の発育や社会性の発達等」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「施設における子どもの様子」、「身体の発育や社会性の発達等」など回答が多くあり、施設側の意見との一致が見られました。



#### 【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「施設における子どもの様子」、「身体の発育や社会性の発達等」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「施設における子どもの様子について」などの回答が多くあり、施設側の意見との一致が見られました。

### ◆ 利用者の傾向の変化について（施設）

#### 【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「家庭で、できないことを頼まれる。しつけを施設側に任せる」、「ニーズが多様化している」、「保護者がさまざまな情報に振り回される傾向にある」など、家庭の教育力の変化を背景とした回答が多くありました。

#### 【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「利用時間が長くなっている」、「薄いつながりを求める親が多くなってきた」などの回答がありました。

### ◆ 施設（スタッフ等）へのニーズについて

#### 【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「個別対応を求められることがある」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「なし」とする回答（施設に満足している意見を含む）が多くありましたが、「子どもが運動する機会を増やして欲しい」、「音楽やダンス、英語などのカリキュラムを増やして欲しい」などの回答もありました。「なし」の回答が多いことから、個別対応を求める意見は、一部に限られていると考えられます。

#### 【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「親同士の交流促進」、「臨時の預け入れ」、「勉強を教えて欲しい」などの回答がありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「子どもたちの興味のある玩具の数が足りない」、「栄養面を配慮したおやつ」、「流行病などの情報をメールで周知して欲しい」、「施設における子どもの様子について」などの回答があり、施設側と利用者との間でニーズに差異が見られました。

## ◆ 子どもからのニーズ等について

「こどもセンター」「青少年学習センター」「児童クラブ」「児童館」の各施設を利用している子ども達に、「先生（スタッフ）にして欲しいこと」についてヒアリングしたところ、「先生と遊びたい」、「外遊びを長くして欲しい」、「携帯テレビゲームをしたい」、「宿題で分からないところを教えて欲しい」など、遊びと勉強の両面で多様な回答がありました。

## ◆ 利用者支援事業について

### 【保育以外の子育てに関する相談をしたい場合の対応】

責任者へのヒアリングでは、「相談内容的確な理解をもとに、常勤職員とすすすく保育アテンダントとの連携により、適切な案内を実施している」との回答がありました。

また、すすすく保育アテンダントへのヒアリングでは、「常勤職員に相談して対応している」、「利用者の要望内容や他機関との連携の可能性について常に考えながら対応している」との回答があり、責任者との意見の一致が見られました。

### 【保育以外の子育てに関する相談を受けた際、適切に連携し対応できるような整備や知識】

責任者へのヒアリングでは、「研修の受講」、「各種資料の読み込みの徹底」などの回答がありました。

また、すすすく保育アテンダントへのヒアリングでは、「研修の受講や資料の熟読による研鑽に努めている」、「保育士をしていた経験を生かす」、「市内の保育園に関わる情報収集を行っている」との回答があり、責任者との意見の一致が見られました。

### 【職員間との連携・調整における課題や、それに対する提案等】

責任者や常勤職員へのヒアリングでは、「職員間の情報共有」、「アテンダントとの連携」などの回答がありました。

また、すすすく保育アテンダントへのヒアリングでは、「課題や提案は特にないが、相談や窓口対応で気になったことの情報共有は行っている」とする回答が多くあったほか、「利用者が求めることに対し、常に最良な対応について考えながら行動している」との回答があり、責任者や常勤職員との意見の一致が見られました。

### 【保育の利用を主な目的とした利用者による保育利用以外の相談内容】

常勤職員へのヒアリングでは、「児童館の案内」「離婚後の生活」「出産前、出産後について」「検診、手当てについて」などの回答がありました。

  
**【外部関係機関との連絡・調整における課題や提案等】**

常勤職員へのヒアリングでは、「特に大きな課題はない」との回答が多くあるなかで、「児童の定員と受け入れ枠の拡大」などの回答がありました。

---

**◆ 市への要望や提案について**

---

**【幼稚園や保育園などの就学前児童に関わる施設】**

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「保育士が現場復帰できるような仕組みづくり」、「保育士の待遇改善」などの回答が多くありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「なし」とする回答が多いほか、「保育士の待遇改善」、「待機児童改善のための保育所のさらなる整備」などの回答もあり、保育士の人材確保に関する点は施設側の考え方と共通しています。

**【こどもセンターや児童クラブなどの主に小学校児童に関わる施設】**

責任者・スタッフへのヒアリングでは、「様々な専門保育士との連携」、「各施設の裁量による開館時間の運用」などの回答がありました。

また、利用者へのヒアリングでは、「施設の機能の周知と充実」、「午前中の開館」などの回答があり、「午前中の開館」は、施設側における「各施設の裁量による開館時間の運用」と共通する面があります。



平成 30 年度子ども・子育て支援に関する  
アンケート調査及びヒアリング調査報告書  
(概要版)

発行日 平成 31 年3月  
発行元 相模原市子ども・若者未来局 子ども・若者政策課  
住 所 〒252-5277  
相模原市中央区中央2丁目11番15号  
連絡先 TEL 042-769-8316(直通) FAX 042-759-4395